

# 愛知医科大学学報



令和6年能登半島地震被災地に向け出発する「コンテナ医療ユニット (CoMU)」  
(関連記事28頁)

## ＝ 第173号 ＝ 2024.1月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1  
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス  
[www.aichi-med-u.ac.jp](http://www.aichi-med-u.ac.jp)

### ■ 主な目次 ■

年頭ごあいさつ	2
令和6年度入学試験開始	16
令和6年度学年暦	18
医学部学生表彰	22
令和6年能登半島地震における本院の対応	28
ドクターヘリ運航20周年記念シンポジウム開催	28
オープンホスピタル2023 開催	29
助産師外来開始	31
教育・研究最前線	43
Smile ～スマイル～	45



## — 令和6年 年頭のごあいさつ —

理事長・学長 祖父江 元

皆さま、明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、お元気で新しい年を迎えられていることと存じます。今年のお正月は、1日から能登半島地震、その後、羽田空港の事故と大変なお正月になりました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興を願っております。愛知医科大学・病院はDMAT、ドクターヘリ、災害コンテナ派遣などできる限りの支援を続けております。

さて、昨年度は、愛知医科大学創立50周年に当たり、記念事業に対しても多くの方々から多大なご支援をいただいております。心より感謝申し上げます。本稿では、次の50年に向けた現在進行中のシステム改革と今後の展望について紹介します。

### 1. 現在進行中の改革について

岡崎の愛知医科大学メディカルセンター（分院）は、大学分院ならではの質の高い医療を提供して地域の中核病院として、また、若い医師を育てる「教育病院」として拠点化させていく予定です。令和5年度の始めから365日の2次救急を開始しており、ゆっくりとではありますが進展してきております。

名古屋市東区の愛知医科大学眼科クリニックMiRAIは、株式会社メニコンとの産学連携寄附講座（近視進行抑制）と眼科日帰り手術ラボを中心に、令和4年7月に開院し、順調に発展しています。

日本造血細胞移植データセンターは、令和4年1月に移転開設後、2年になります。本センターは、現在12万例に及ぶ全国の血液疾患患者データを有しており、わが国全体のデータセンターとして活躍しております。一方、加齢医科学研究所では、現在6千例以上の神経変性疾患の死後脳・脊髄を集積し

ており、海外を含めた全国との共同研究が推進されています。本学には、このようなバイオデータ・リソースバンクが他にもいくつか存在しており、これをベースにした研究が特徴的な研究として、今後の発展が期待されると思います。

医心館のセミナー室拡充、レストラン「オレンジ」の改修は終了し、いずれも学生の自主的な学修に盛況に利用されています。また、昨年度から医学部の5・6学年次生にマンツーマン方式の学修指導を取り入れ、昨年の医師国家試験では新卒合格率が100%となりましたが、加えて6学年次生の留年生が激減しており、この点の効果も大きいと感じています。

看護学部は、昨年10月に「看護学教育評価」を受審し、適合になっております。更に、看護学研究科博士課程設置構想が進んでおり、博士課程（PhDコース：Doctor of Philosophy in Nursing及びDNPコース：Doctor of Nursing Practice）を設置し、高度な看護実践を行う診療看護師や専門看護師の指導者を養成します。日本の高度看護実践のトップランナーを目指します。

また、先進医療研究棟構想について50周年を契機にスタートさせます。「世界を見据えた教育・研究活動の充実と発展」、「診療・研究・教育を担う卓越した人材の育成」、「地域医療・地域貢献の促進」などの五つの目標を掲げ、その実現に向けた先進医療研究棟構想プロジェクトを進めていきます。本学マスタープラン構想の実現に向けて検討を進めます。

### 2. 今後に向けたシステム改革

ここでは、現在進行中のシステム改革の一部をご紹介します。これらは現在進行中のものもありますが、今後に向けた重要な戦略です。今回は、救急医

療体制改革，働き方改革，リハビリテーション改革について若干の紹介をします。

第1には救急医療体制改革で，これは3年前から第一次改革を進めており，現在は，第二次の改革に当たります。救急は本学にとって地域連携の中核を成すもので，患者，地域，医師スタッフのいずれにとっても満足度の高いものでなくてはならないと考えます。第一次改革では，屋根瓦型のチーム医療，管理当直，当直室の整備，救急マニュアルの整備などを行い，特に時間外診療体制については，ある程度の成果が得られていると感じます。ただ，この第一次改革で残された課題も多く，特に一次・二次・三次救急の統合的な運用，救命救急科の常勤医の増員，各科専修医の救命救急科への3か月間の学内出向，経過観察病棟（TACU），救急管理棟の増設といったハード面や救急教育の推進などを進めており，多くは動き出しております。更に，昨年本学は，愛知県から県内2か所のうちの1か所となる重症外傷センターの指定を受けてハイブリッドERを設置しており，既に稼働しています。多くの部分は動き出しており，この1年くらいが重要と思います。

第2には，医師の働き方改革で，これには二つの意味があります。一つは，国・厚生労働省の働き方改革として医師の時間外労働を960時間以内に短縮せよというものので，本学では医師全員の勤務時間実態調査を既に3回行っております。連続勤務時間制限，勤怠管理，代務時間，宿日直許可の取り直しに基づく超過勤務の改善案なども併せて報告し，特例水準であるB水準及び連携B水準の認定を受けております。

もう一つは，本学独自の働き方改革で，本学としては多くの医科大学でも採用されつつある変形労働時間制を推進していく方向です。この中には，シフト制導入，兼業・副業管理，手当の見直し，Dr.JOYによる勤怠管理システム導入など多くのポイントが含まれています。急な変化を回避する緩和措置も考慮し，この4月からいよいよ実施となりますが，1年程度は試行的に行い，色々な問題を改善していく予定です。

第3には，リハビリテーション改革です。リハビリは急性期から慢性期にかけて種々の疾患について

改善が得られるというエビデンスが出てきており，その治療的重要性が再認識されてきています。改革としては，これまで手狭であったリハビリスペースを約2倍に拡張し，セラピストの増員，対象疾患の拡張，分院の回復期リハビリとの共働，更には精神疾患や認知症へも拡張していきたいと考えています。一方では，学校法人佑愛学園愛知医療学院短期大学との連携を進めており，同法人は昨年文部科学省から4年制大学の設置が承認されました。今後，更に連携を深めるとともに，本学のリハビリ医療の充実に向けて取り組んでいきたいと考えております。

また，本院は看護師不足などのために長らく53床を休床にしておりましたが，今年度から活用することで現在改修を進めています。病床稼働や手術数の増加，診療の活性化に繋げて行きたいと思っております。

様々なシステム改革・改変を進める時代に入ってきていると思っております。大学の在り方が大きく変化してきていると感じます。皆さま方には是非ご理解いただき，引き続きご支援を賜れば幸いに存じます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。







## — 転換する時代の中で 更に活力のある医学部を目指して —

医学部長 笠井 謙 次

この度の能登半島地震で被災された方々にお見舞い申し上げます。新年を寿ぐ矢先の、更に震災規模の大きさに、受けられた衝撃はいかばかりかと拝察致します。本学大学病院では発生直後に道勇学病院長を中心とした病院災害対策本部が立ち上がり、翌1月2日にはDMATやドクターヘリが現地に出動しました。今後も長期にわたる支援活動が必要だろうと考えます。そのため医学部としても医療に留まらず教育研究や地域安全など様々な角度からの支援を行いたいと考えています。また今回の震災では、幸い本学からの人的被害は報告されていませんが、親族友人が被災、あるいは実家が損壊するなど困難な状況の学生や教職員がいます。そこで、学生相談室から早速災害発生直後の心理面のサポート方法について案内を發出していただきました。こうした医科大学らしい社会貢献や構成員サポートを今後も心掛けていきます。

さて、令和5年度から6年度にかけて医学教育を取り巻く状況が大きく変わります。まず令和5年度に臨床実習前CBT・OSCEが公的化されました。今後はこれら公的試験に合格し医師法の裏付けを以って臨床実習に取り組む学生を、真にチーム医療の構成員として診療に参加させる必要があります。また、医学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂され、令和6年度新入生から適用になります。それに合わせ本学では来年度からのカリキュラムを大幅に見直しました。特に実務者養成を意識して講義実習枠いっぱい詰め込んだ従来からの低学年カリキュラムを修正し、受験勉強から大学高等教育へと円滑に移行できるように、また、青年期にある学生が様々な可能性を追求しつつ自律的に成長できる余地を落とし込むように意識しました。更に、数理データサイエンス教育に関する教務委員会及び評価委員会を看

護学部と合同で立ち上げました。これにより医療系大学として当該教育を継続的に深化させるとともに、政府の「AI戦略2019」に基づき発足した数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の受審に向けた準備を進めています。

また、大学院教育では、本学を含めた7校が参加する「東海がん専門医療人材養成プラン」(拠点校:名古屋大学)が文部科学省「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」に選定されました。このプランの中で本学はがん薬物療法や放射線治療、病理診断、疼痛医学、緩和ケアなどの特徴を活かした人材育成に努めていきます。

現在は、全国の医学部にとって大変舵取りの難しい時代になりました。少子化や医師過剰時代の到来が叫ばれる中、医学部定数の見直し議論が始まっています。そのため本学では上述の教育改革を進めつつ、診療、研究の更なる向上と社会へのアピール、また、有為な受験生を多く確保できる入試体制の改革が必要になります。

その一方で、いよいよ令和6年度から「医師の働き方改革」が始まります。大学病院医師にとって診療は勿論、教育と研究も本来業務であるのは自明とは言え、しかし地域の負託に応えられる高難度で先進的な医療を提供しつつ教育と研究を更に進化させるためには、また個人としての医師・教員、組織としての大学・医学部がともに持続可能な成長をするためには、これまでの常識に捕らわれない変革が必要だと考えます。転換する時代の中で小さいながらもピリリと辛い、社会から信頼され他では代えられない、そんな大学・医学部に成らなければなりません。学生・教職員皆さまの益々のご協力を宜しくお願い致します。





## 一人々の命と健康を守る 社会に貢献できる看護であり続けるために

看護学部長 坂本 真理子

令和6年の年頭に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。皆さまには、日頃から看護学部・看護学研究科の教育・研究活動にご理解ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私こと令和6年3月末をもって3期6年にわたる看護学部長・看護学研究科長としての任務を終えることとなりました。これまでの皆さまからのご支援に心から感謝申し上げるとともに、今後も看護学部への変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年は新年に能登半島地震、大規模な飛行機事故と大変な幕開けでした。災害で大きな被害を受けられ、今なお避難を余儀なくされている皆さまに心からお見舞い申し上げます。また、支援活動に従事しておられる皆さまに心から敬意を表します。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、正にWithコロナを実践する年となりました。社会全体ではマスクなしで行動する人や活動も活発になり、日常に戻っていく段階を感じることもありました。医療機関を抱える本学では気を緩めることができない日々が続いていたと思います。

それでは、この場をお借りして、看護学部の1年を報告させていただきます。まずは、令和4年度看護師国家試験及び保健師国家試験でも、受験者全員合格の嬉しい結果が得られました。学生たちと教職員の努力と父母会の皆さまのご支援のおかげだと思っております。

令和5年3月には学術交流協力を締結しているマハサラカム大学（タイ王国）及びシンガポール国立大学へ、大学院生を派遣する海外研修を開始しました。7月にはマハサラカム大学から学部生と教員を本学にお迎えする短期留学の受け入れが3年ぶりに再開されました。令和6年3月にはケース・ウェス

タン・リザーブ大学（米国）とマハサラカム大学にて学部生の短期留学を再開致します。

令和5年10月には、兼ねてより準備を進めて参りました看護学教育評価機構による外部評価を受審致しました。正式な評価結果はこれからですが、機構による評価案では、これまで看護学部が大事にしてきた教育活動が外部評価により肯定的な評価をいただくことができ、自信にも繋がりました。外部評価には数年にわたる準備が必要であり、教員はもとより事務部の皆さまがともに頑張ってくださいました成果だと思っております。また、外部評価の準備からリーダーシップをとっていただきました高橋佳子名誉教授の貢献にも深く感謝申し上げます。外部評価により、明らかになった教育上の課題もございまして、今後も引き続き教育の質担保のために改善を重ねて参りたいと思います。

本院看護部との看護連携型ユニフィケーション推進事業は、年々活動が活発になっております。一般入試などでも受験生の志願理由の一つとしてユニフィケーションを話題とすることも多くなり、部署を超えた看護チームとして取り組んできた成果が受験生にも伝わってきたことが分かり、本当に嬉しく感じています。

令和6年3月には博士課程の設置申請にチャレンジ致します。博士課程には、PhDコースと高度実践者として更なる看護の質向上を目指すDNPコースの両コースを設定しております。これまでも多くの高度実践看護職を送り出してきた本学看護学研究科ですが、更に意欲的で創造的なプログラムを検討し、人々の命と健康を守ることができる社会に貢献していきたいと考えております。

皆さまのご健康と益々のご活躍を心から祈念して、私からの年頭のごあいさつとさせていただきます。



## 謹賀新年

— 新たな年を迎えるに当たり、  
ごあいさつ申し上げます。 —

病院長 道 勇 学

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

皆さまにおかれましては、日頃より愛知医科大学並びに病院に対してご厚情を賜わり、先ずもって御礼申し上げます。

愛知医科大学病院は、未だコロナ禍の余波が長引く中、また、働き方改革に則した勤務形態への抜本的移行が秒読み段階に突入した中においても、全職員が病院の理念を忘れず、より強靱な団結のもと決して留まることなく着実な歩みを進めております。本院が掲げる最も重要な達成目標は、言うまでもなく医療の質と安全性の継続的向上及び経営基盤強化に繋がる病院経営の発展的維持であり、特に医療の質向上は本院にとっての使命です。

私たちが目指すべき医療の質とは、医療安全管理能力に裏打ちされた組織としての総合力であり、持続的かつ高度な医療安全管理体制のもとで初めて更なる高度最先端な医療技術開発及び総合的臨床力普遍化に繋げることが可能となります。本院では医療安全管理室スタッフの多大な尽力により医療安全レベルを高く保ち、安全意識文化の継続的向上に努めてくれています。

一方、病院経営基盤強化が本学発展の根幹であることは必定です。本院は、持続的なコロナ入院患者に追われつつも新病院開院以来の経年的医療収入増加を達成してきています。加えて、来年度早々には休床53床を完全復活すべく昨年夏から病院本棟において増床工事が着々と進んでいます。今後は法人の経営戦略推進室とともに種々の解析ソフトを活用した病院経営データ集計・分析を行うことで、より極め細やかでダイナミックな病院経営戦略を推進していきたいと考えています。

地域医療連携については、病-病間医療者人材交流促進並びに医療連携センター及び入退院支援センターの体制強化を図るとともに、連携先病院との実地的な転院調整会議や看護機能連携会議を開催しつつ病院間相互利益関係構築、即ち「顔の見える連携」が定着し、この成果や構築された病-病連携体制は全病院的に周知されてパイプの太い地域医療連携体制として同化が進んでいます。

今年から大胆な変革を遂げるのが救急医療体制です。令和元年度末より理事長直轄救急医療体制改革プロジェクトが発足し、一次・二次救急と三次救急を統合した新たな救急体制の構築を進めています。昨年は1月に指定を受けた愛知県重症外傷センターに対応すべく、Hybrid-ER改築並びに外傷救急診療体制の整備が完結し、各診療科専修医の救命救急科3か月配属による超診療科救急医療とも言うべき専門研修教育システムが首尾よく機能しております。また、来年度に向けては、救命救急科専任医の増員、救急新棟完成、ER直結の経過観察入院病棟（Transitional Acute Care Unit：TACU）完成、更にはStroke Care Unit（6床）の12B病棟内設置が待たれるところでもあります。令和6年度は「愛知医大病院の変革」がいよいよ本格始動します。

以上、本院の主な近況についてご紹介しましたが、最後に大学・病院関係者の方々並びに学報をお読みの皆さまのご健勝と、愛知医科大学、愛知医科大学病院の益々の発展・成長を祈念して、年頭のごあいさつとさせていただきます。

## 令和6年新年祝賀式挙行

令和6年1月4日（木）午後3時から大学本館たちばなホールにおいて、新年祝賀式が行われました。

### 【写真】

祝賀式では、祖父江元 理事長から、1月1日に起こった能登半島地震のお見舞いの言葉とともに、本学としてDMATなどの支援を行っているとの話がありました。その後、「本学では、未来に繋げるビジョンの実現に向けて様々な事業の継続、発展に取り組んでいます。まず、経営に対する意識の醸成を図り、これまで行ってきた事業の拡大、恒常的な安定経営を行うことで、持続的な発展を可能にする経営基盤の確立を目指します。また、医師の働き方改革として、新勤怠管理システム『Dr. JOY』を導入し、一定の緩和移行期間を設けながら労務の適正化に取り組めます。更に、地域医療の革新のため、



本院とメディカルセンターとの患者・医療情報を循環させシームレスな医療を可能にすることで、QOLの向上、予後の改善や再発予防に繋がっていきます。このような取り組みを通して、愛知医科大学及び病院の発展のため、未来に繋げるビジョンを実現させていきたいと考えています。」とあいさつがありました。

## 役員・名誉教授・教授懇親会開催

令和5年12月19日（火）午後7時から名古屋東急ホテルにおいて、令和元年度以降4年ぶりに「役員・名誉教授・教授懇親会」が開催されました。お忙しい中、ご出席いただいた62名の諸先生方は、久しぶりにお顔を合わせられたこともあって話に花が咲き、とても和やかな懇親会となりました。【写真】

初めに祖父江元 理事長からあいさつがあり、稲福繁名誉教授の音頭で乾杯が行われ会が始まりました。懇親会では、令和5年春の叙勲において瑞宝小綬章を授与された野口宏名誉教授に対し、祖父江理事長から花束が贈呈され、続いて、この4年間に新たに就任された名誉教授、教授及び役員紹介がありました。懇親会が進む中、笠井謙次医学部長、道



勇学病院長、坂本真理子看護学部長から近況報告があり、大学・病院の現状や今後の展望が共有されました。最後に、羽生田正行理事からあいさつがあり、会は盛会裡に終了しました。



# 令和5年度永年勤続者表彰

令和5年11月22日（水）、大学本館たちばなホールにおいて令和5年度永年勤続者表彰式が行われました。

祖父江元 理事長から表彰状が授与され、被表彰者へのお祝いとお礼の言葉とともに、「長く勤めていただく方々がおられるというのは、非常に嬉しく、ありがたい。更に次の段階を目指して頑張っていたきたいと思います。今日は本当におめでとうございます。」とあいさつがあり、被表彰者を代表して、薬剤部の島田博之室長から謝辞が述べられ、表彰式は終了しました。永年勤続者表彰者は、次のとおりです。



謝辞を述べる島田室長

## 30年勤続者（16名）

伊佐次厚司	石川かおり	伊藤 卓也	内山 貴弘	小澤 泰彦	川辺かな子	近藤 美樹
柴田 由加	島田 博之	鷺見 恵	仙石 昌也	高橋 功	多々良英矢	林 まり子
藤本 明美	脇田 美和					

## 20年勤続者（16名）

阿部菜々子	伊藤 良子	今田 佑果	太田 梨江	河村 京子	小林 広人	杉山 明隆
竹内 史子	永田 寛	幡野その子	原田 直美	原田 博之	平松 敏雄	廣瀬 善吉
福岡 敬晃	矢島 陽子					

## 10年勤続者（46名）

安藤 宏明	飯田 初穂	伊藤 朝子	内田 吉将	梅村 朋弘	大島 幸彦	大庭 旭史
岡田 洋平	葛西 博幸	加藤 広悟	川島 未奈	神田 竜平	木島 望美	木原 崇裕
桐生 和馬	汲田 紋奈	甲村 奈穂	近藤 正樹	榊山麻由佳	佐野千津子	白井なつみ
杉浦 良	杉山 浩一	高畑 友理	高原かおり	竹下 覚	辰野 好成	棚瀬 結香
田邊 治毅	橋本 幾江	羽根田 篤	濱上萌奈美	林 寿来	松尾 友仁	松永 望
松永 昌宏	水谷 雄人	南 佳孝	森 文知	柳井とよ子	山崎 英嗣	山路真也子
湯浅 知子	若杉 菜摘	脇村 大樹	涌村 翔			

(78名：五十音順・敬称略) ※氏名掲載は希望者のみ。表彰状に記載されている氏名としています。

## 訃報

### 侘美好昭名誉教授 御逝去



令和6年1月2日(火)に侘美好昭名誉教授(麻醉科学講座)がご逝去されました。享年91歳でした。

侘美先生は昭和34年3月に名古屋大学医学部を卒業し、昭和48年7月に愛知医科大学医学部麻醉科学講座の教授として就任され、同講座の開設、発展に大きく貢献されました。

本学大学院創設への尽力及びその運営への貢献を始め、昭和63年から3年間にわたり学生部次長を務められ、学生の生活指導に尽力されました。また、昭和48年から5年間にわたり中央手術部長を務められ、更に昭和54年から11年間にわたり救命救急センター部長として同センターの運営に尽力されました。このほか、留年対策委員会委員長、予算委員会委員、倫理委員会委員、教務委員会委員、研究科委員会運営委員会委員のほか多数の各

種委員会委員を務められ、本学の教育・診療・研究の充実、発展に大きく貢献されました。

先生は、永年にわたって麻醉学及び集中治療医学分野の教育、研究に努められ、本院救命救急センターの誘致及び集中治療室の開設・運営に多大な貢献をされました。また、特に集中治療医学分野の研究に力を注がれ、周術期を含め重症患者の管理と予後の改善、人工呼吸時の肺機能の変化の解明と人工呼吸法の改良に大きく貢献されました。

更に、日本麻醉学会、日本臨床麻醉学会、日本熱傷学会、日本集中治療医学会、日本蘇生学会、日本ペインクリニック学会、日本救急医学会東海地方会などの評議員として尽力され、我が国における麻醉学、集中治療医学の向上発展に多大な貢献をされました。

ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 訃報

### 梅澤 一夫教授 (分子標的医薬寄附講座) 御逝去



令和6年1月12日(金)に梅澤一夫教授(分子標的医薬寄附講座)がご逝去されました。享年77歳でした。

梅澤教授は昭和44年3月に東京大学理学部化学科を卒業され、平成元年4月には慶應義塾大学理工学部応用化学科の教授に、平成24年4月には愛知医科大学医学部分子標的医薬寄附講座の教授に就任されました。

35年間の教授人生において、抗がん剤や抗炎症剤の創薬に関する研究を中心に約500本の論文を発表されました。動物実験で毒性を示さず、強力な抗炎症・抗がん活性を示すNF-kappa B阻害剤DHMEQを見出し、注目されました。臨床と新しい治療法の研究を密接にするため、DHMEQ軟膏(中国深圳万和製薬)や腹腔内投与抗がん療法(ロシア・PeritonTreat LLC)の企業導出を積極的に行い、これまで国内外問わず多くの共同研究を展開されてきました。

一方教育面では、医学部1学年次「生体分子の化学」の授業を担当し、生体分子の構造と機能の関連の講義をされてきました。更に、医学部2学年次を対象にセミナーを開き、研究室で行っている培養細胞を用いたがん細胞の転移を抑える化合物の探索を紹介し、実践するなどの教育も行ってきました。また、積極的に留学生を受け入れ、若い世代の国際連携を進めるためにも尽力されました。ユーモア、オープンマインド、謙遜、細かいことを気にしないという梅澤教授のモットーの基で、仕事のしやすい研究環境が整備されていました。

更に、日本癌学会、日本生化学会、日本化学療法学会の評議員、日本ケミカルバイオロジー学会の顧問、日本放線菌学会の理事、Oncology Research(米国国際誌)の編集長として尽力され、日本のみならず世界における創薬研究や教育の向上・発展に多大な貢献をされました。

梅澤教授のこれまでの貢献に感謝するとともに、先生の安らかなご永眠を心よりお祈り申し上げます。

## 医師の働き方改革に伴う全体説明会実施

令和6年1月10日（水）午後4時から大学本館たちばなホールにおいて、診療科所属医師、臨床技術員を対象とした「医師の働き方改革に伴う全体説明会」が開催され、計81名の職員が参加されました。

本学独自の医師の働き方改革実現のため、理事長のもと、働き方改革プロジェクトとして議論を重ね、進捗状況等は随時常任理事会に報告され、対象となる職員にも病院の定例会で祖父江元理事長から説明しています。直近では、昨年12月19日（火）の病院部長会、12月25日（月）の医局長会に続く全体説明会の開催となりました。

当日は、働き方改革担当の天野哲也副院長の司会のもと、祖父江理事長、伊藤恭彦働き方改革プロジェクトリーダーから、医療法の改正に伴い、令和6年4月1日から全国的に医師の働き方改革が始まることを受け、本学においても、厚生労働省からの通知などに従い、変形労働時間制の導入、臨床系教員学外研修（代務）の取り扱い、勤務計画管理者（実務担当者）の新設を始めとした、様々な制度変更を予定していることについて説明されました。



講演する祖父江理事長

勤務の都合上、今回の説明会に参加できなかった方々のため、今回の説明会及び過去の説明会の動画配信も行っております。

また、働き方改革において、医師の時間外労働時間（残業時間）を令和6年度から令和17年度までは1,860時間以下に、令和18年度以降は960時間以内にすることが必須となっており、本学では時間外労働時間を短縮するため、宿日直時間帯における宿日直許可の再取得や、医師のタスク・シフト／シェアにかかるドクターズクラーク（医師事務作業補助者）の増員など各種の対応も行っているところです。

## ハラスメント防止イベント開催

令和5年12月4日（月）から10日（日）の人権週間にちなんで、本学でのハラスメント防止に向けた啓発活動が実施されました。

令和5年12月6日（水）をイベント開催日とし、パワーハラスメント関連のDVD放映が行われました。DVD視聴者からは、「普段パワハラに気付かないこともあるが、今思い返すとそれに当たるものもあったのではないかと感じました。」「今後、自分の言動に注意しようと思いました。」などの意見がありました。

このほか、ハラスメント防止ポスターを掲出し、

広くハラスメント防止の意識付けを行うとともに、ハラスメントに関する相談を気軽にできる機会として、簡易相談窓口が設置されました。

困ったときは一人で悩まず、『ハラスメント防止啓発カード』にある相談窓口の専用電話番号（内線：77744）や専用メールアドレス（ksoudan@aichimed-u.ac.jp）を利用して、相談するように心掛けていただきたいと思います。

今後も、「ハラスメントのない明るい職場作り」にご協力をお願いします。



## 愛知医科大学公開講座（長久手市連携事業）

令和5年11月30日（木）午後2時から、長久手市保健センター3階会議室において、長久手市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

今年度は、「大人の発達障害の理解がもたらすもの」と題して、心理学の宮本淳教授が講演されました。

神経発達症の症状や診断基準について説明があり、日常生活の中でどのように対処していけばよいのかのお話がありました。参加者からは、「個々の特性を見ることを心がけていきたい。」などの感想



があり、大変有意義な講座となりました。

## 愛知医科大学公開講座（瀬戸市連携事業）

令和5年12月5日（火）午後2時から、瀬戸市やすらぎ会館5階大集会室において、瀬戸市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

今年度は、「更年期障害って何？～更年期を迎えるにあたって知っておきたいこと～」と題し、産婦人科学講座の松下宏准教授が講演されました。

更年期障害が起こる仕組みや間違われやすい疾患についてお話があり、参加者は真剣に聞き入っていました。参加者からは、「更年期症状との向き合い方や治療について理解でき、不安が和らいだ。」な



どの感想があり、大変盛況な講座となりました。

## 愛知医科大学公開講座（尾張旭市連携事業）

令和5年12月7日（木）午後2時から、スカイワードあさひ6階ひまわりホールにおいて、尾張旭市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

今年度は、内科学講座（消化管内科）の佐々木誠人教授（特任）が、「腸から考える健康長寿～腸内細菌があなたと子孫の未来を左右する～」と題し、腸内細菌の種類や、人種や食生活等により腸内環境が異なることなどについて講演されました。

参加者からは「食生活を考える良いきっかけになった。」「腸内環境を整えて健康に暮らせるよう



に、子や孫にも伝えていきたい。」などの感想があり、大変盛況な講座となりました。

## 愛知医科大学研究者データベースの公開

総合学術情報センター（図書館部門）において、これまで運用してきた「研究業績集」が、令和5年11月1日（水）に「愛知医科大学研究者データベース」としてリニューアルし、学外公開が開始されました。

新しい「愛知医科大学研究者データベース」では、業績の登録・編集方法の見直しを行い、データベースへ直接登録する以外に、研究者情報として広く用いられているresearchmapデータベースから業績データを取り込むようにすることで、研究者の登録作業の負担が大幅に軽減し利用しやすくなりました。

また、「誰が」、「どのような」研究に取り組んでいるかを氏名や研究キーワードから詳細に検索することが可能になり、データベースの利活用を通して学内外との研究振興の活性化が期待できます。

総合学術情報センター（図書館部門）では、今後

### <愛知医科大学研究者データベース検索画面>



### <アクセスURL及びQRコード>

<https://amurd.aichi-med-u.ac.jp/search>

も研究者データベースを始め、  
本学の教育・研究支援に貢献する  
サービスの充実を図っていきます。



## 学内研究ユニット創出支援事業 成果発表会開催

令和5年12月26日（火）午後1時から、大学本館7階会議室等において、学内研究ユニット創出支援事業成果発表会が開催され、各ユニット研究代表者によるプレゼンテーション発表と各ユニット及び学内研究者によるポスター発表が行われました。

研究ユニット創出支援事業は、学内の研究活性化を目的として、分野横断的な「研究ユニット」を組織して、各ユニットで研究を遂行するもので、その研究成果発表の場として、学内研究ユニット創出支援事業成果発表会が開催されました。

発表会当日は、プレゼンテーション発表15課題とポスター発表43課題の研究成果発表が行われ、118名の研究者等が参加しました。発表会を通じて多くの研究者間での活発な意見交換や研究内容に関する質疑応答があり、大学全体の研究交流会の場として活用され、非常に有意義なものとなりました。



プレゼンテーション発表の様子



ポスター発表の様子

## 大学コンソーシアムせと「大学生によるまちづくり活動」参加

令和5年8月5日(土), 9月9日(土), 令和6年1月14日(日)に, 本学が加盟する大学コンソーシアムせとの助成金事業である「大学生によるまちづくり活動」が, 瀬戸市の交通児童遊園において行われました。

この事業は, 大学生の成長及び自立を促し, その活動成果が地域社会の発展に資することを目指しており, 本学の学生ボランティアサークルHIAMU (Heart in Aichi Medical University) が愛知淑徳大学の学生団体CCC (Community Collaboration Center) と協力し, 4年連続して参加しています。今年度は, 「瀬戸の子どもたち! 楽しみながらつながろう!」と題して, 子どもたちが楽しみながら人と人の繋がりを感じ, 楽しむことで新たな学びを発見することを目的としました。

医学部2学年次生のHIAMU代表である久保田賢人さんと副代表の宮地紗菜さんが中心となり, 3回の活動を企画しました。1回目の「ポッチャを楽しもう!」では, チームに分かれ試合を行い, 誰でも楽しむことができるというパラスポーツの意義を学んでもらいました。2回目の「謎解きを楽しもう!」では, 熱中症で倒れた職員を救うというストーリーのもと, 様々な学年の子どもたちが協力して謎を解き, 楽しく医学知識を学んでもらいました。3回目



白熱したポッチャの試合



介助犬の実演

の「介助犬と楽しく過ごそう!」では, 実際に介助犬と触れ合い, 介助犬の役割についてゲームをしながら学んでもらいました。

参加した子どもたちからは, 「また参加したい。」「みんなと真剣に考えて楽しかった。」などの声を聞くことができました。今後も子どもたちが新たな学びを発見できる活動を継続していく予定です。



## 献血ご協力ありがとうございました

令和6年1月12日(金)大学本館1階南側ロビーにおいて, 愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され, 職員を始め多くの方にご協力いただきました。

せっかく献血をお申し出いただいたのに体調によりご協力いただけなかった方々は, ご自愛いただき, 次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

### 冬の団体献血 (結果)

・献血受付数	・58名
・献血できた方	・45名 (400mL・36名)
・献血できなかった方	・13名

次回は令和6年6月頃に予定していますので, ご協力をよろしくお願ひします。



## 令和5年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では、「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

### 部下とのコミュニケーション実践研修実施

令和5年11月14日（火）午後1時30分から、大学本館たちばなホールにおいて、主任以上の医療・看護・事務職員を対象に、多様化する部下への関わり方を学ぶことを目的とした部下とのコミュニケーション実践研修が実施され、78名が受講しました。【写真】

研修では、講師自身の経験を踏まえた説明も多くあり、年齢層や雇用形態、価値観の異なる部下との円滑なコミュニケーションの取り方だけでなく、ハラスメントに関する内容など広く学ぶことができました。

研修会後のアンケートでは、「もっと自分の部下とのコミュニケーションを取ろうと思い、さっそく翌日から意識してスタッフの話聞くことを試した。」「自身の行動や発言



を講義にて再度振り返るきっかけとなった。」といった感想がありました。

### 令和5年度新規採用事務職員半年フォロー研修実施

令和5年11月17日（金）午後1時45分から、大学本館711特別講義室において、令和5年度新規採用事務職員を対象に、配属後半年を一つの区切りとした半年フォロー研修が実施されました。

今年度は、「キャリア」と「物事を前向きに捉える考え方を身につけるリフレーミング」をテーマとして、グループワークや全体での意見共有を行いました。今年度に入職した事務職員同士の仲を深め、部署を越えた人間関係づくりを行うとともに、入職から約半年間を振り返る機会となりました。

受講者からは、「自分のキャリアアップのために今日得た知識を活用していきたい。」「自分の固定観念だけで物事を捉えず、色々な角度から見ることで、失敗などがあつたとしても落ち込むだけで終わらず、次に繋げられるよう



研修の様子

今回学んだことを活かしていきたい。」といった感想がありました。

本学の将来を担う人材を育成するために、今後も積極的に様々な研修に取り組んでいく予定です。

## ハラスメント防止講演会開催

令和5年12月13日（水）午後4時から、大学本館ちばなホールにおいて、「医療機関におけるパワハラをめぐる法律問題」をテーマとしたハラスメント防止講演会が開催されました。宮澤・内田法律事務所代表弁護士の宮澤俊夫氏を講師としてお迎えし、教職員44名が受講しました。【写真】

講演会では、ハラスメントの法的意義、パワーハラスメントの行為類型や判例について、具体的な事例を用いながらご説明いただきました。

研修会後のアンケートでは、「事例の紹介が分かりやすかった。」「事例を参考に、ハラスメントととられないように自己の行動に気をつけたい。」といった感想がありました。



## 事務系管理職SD実施

令和5年12月22日（金）午後3時から、大学本館711特別講義室において、事務系管理職を対象としたSDが「AIの現状と活用」というテーマで実施され、27名が参加しました。

本研修は、講師自身の実体験を踏まえた説明も多くあり、Large Language Models（大規模言語モデル）やChatGPTなど近年取り沙汰されているAI技術について、より理解を深める機会となりました。

受講者からは、「文書校正や要約などは、必要な場面で使うことでかなりの効率化を図ることができると思った。」「今後AIは業務上欠かせないものとなっていくと思うので、効率化を考えて活用していけるようにしたい。」といった感想がありました。



受講する事務系管理職の皆さん

# 令和6年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部、看護学部、大学院の入試が行われています。いずれの試験においても、受験生の合格への意気込みが感じられました。

## 《医学部》

### ●学校推薦型選抜

<公募制>

- ①試験日 令和5年11月25日(土)
- ②志願者数 84名
- ③受験者数 83名
- ④合格者発表 令和5年12月7日(木)
- ⑤合格者数 20名

### ●国際バカロレア選抜

- ①試験日 令和5年11月25日(土)
- ②志願者数 5名
- ③受験者数 5名
- ④合格者発表 令和5年12月7日(木)
- ⑤合格者数 3名

### ●一般選抜

<第1次試験>

- ①試験日 令和6年1月16日(火)
- ②志願者数 2,212名
- ③受験者数 2,157名
- ④第2次試験受験資格者発表  
令和6年1月25日(木)
- ⑤第2次試験受験資格者数  
448名

<第2次試験>

- ①試験日 令和6年1月31日(水)・2月1日(木)
- ②合格者発表 令和6年2月8日(木)

### ●大学入学共通テスト利用選抜

<前期>

<第1次試験>

- ①試験日 令和6年1月13日(土)・14日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表  
令和6年2月8日(木)

<第2次試験>

- ①試験日 令和6年2月22日(木)
- ②合格者発表 令和6年2月29日(木)

<後期>

<第1次試験>

- ①試験日 令和6年1月13日(土)・14日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表  
令和6年3月7日(木)

<第2次試験>

- ①試験日 令和6年3月12日(火)
- ②合格者発表 令和6年3月14日(木)

### ●学校推薦型選抜<愛知県地域特別枠A方式>

- ①試験日 令和5年11月25日(土)
- ②志願者数 13名
- ③受験者数 13名
- ④合格者発表 令和5年12月7日(木)
- ⑤合格者数 5名

### ●大学入学共通テスト利用選抜<愛知県地域特別枠B方式>

<第1次試験>

- ①試験日 令和6年1月13日(土)・14日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表  
令和6年3月7日(木)

<第2次試験>

- ①試験日 令和6年3月12日(火)
- ②合格者発表 令和6年3月14日(木)



## 《看護学部》

### ●学校推薦型選抜

#### ＜指定校制＞

- ①試験日 令和5年11月11日(土)
- ②志願者数 12名
- ③受験者数 12名
- ④合格者発表 令和5年11月21日(火)
- ⑤合格者数 12名

#### ＜公募制＞

- ①試験日 令和5年11月11日(土)
- ②志願者数 45名
- ③受験者数 44名
- ④合格者発表 令和5年11月21日(火)
- ⑤合格者数 20名

### ●社会人等特別選抜

- ①試験日 令和5年11月11日(土)
- ②志願者数 1名
- ③受験者数 1名
- ④合格者発表 令和5年11月21日(火)
- ⑤合格者数 1名

### ●一般選抜

- ①試験日 令和6年1月28日(日)
- ②志願者数 400名
- ③受験者数 396名
- ④合格者発表 令和6年2月7日(水)

### ●大学入学共通テスト利用選抜(A方式・B方式)

- ①試験日 令和6年1月13日(土)・14日(日)
- ②合格者発表 A方式・B方式:令和6年2月14日(水)

## 《大学院医学研究科》

### ●第2次募集

- 1 募集人員  
基礎医学系, 臨床医学系各専攻合わせて23名
- 2 出願期間  
令和5年12月1日(金) から  
令和5年12月15日(金) まで【必着】
- 3 入学者選考方法  
入学者は, 学力試験及び出身大学の調査書を  
総合して選考する。  
①試験日 令和6年2月2日(金)  
②試験項目及び時間

時 間	試験項目
10:00 { 12:00	外国語(英語) 〔辞書使用可, 電子辞書不可〕 ※ 外国人志願者の外国語試験は, 英語一カ国語のみによる試験又は 英語と日本語の二カ国語による試 験のいずれかを選択する。
13:00 {	面接試問(志望する専攻分野に関連 する専門試験を含む)

- 4 合格者発表  
令和6年3月1日(金)
- 5 入学手続期間  
令和6年3月4日(月) から  
令和6年3月11日(月) まで
- 6 出願書類提出先  
愛知医科大学医学部教務課大学院係

## 《大学院看護学研究科》

第1次募集で定員に達したため, 第2次募集  
実施なし。

## 令和6年度学年暦のご紹介

令和6年度の医学部及び看護学部の主な学年暦を紹介します。

医 学 部	
4月1日	5・6学年次前学期授業開始
4月7日	入学式
4月8日・4月11日～4月12日	新入生ガイダンス
4月9日～4月10日	新入生研修
4月8日	4学年次前学期授業開始
4月9日	2・3学年次定期健康診断
4月10日	3学年次前学期授業開始
4月15日	1・2学年次前学期授業開始
4月19日	1・4学年次学生定期健康診断
5月2日	5・6学年次総合試験A
5月2日	5・6学年次学生定期健康診断
5月13日	解剖慰霊祭
5月13日～5月17日	1学年次早期体験実習1a(シミュレーション実習)
5月27日～5月31日	1学年次早期体験実習1b(看護体験実習)
7月13日	6学年次共用試験Post-CC OSCE
7月16日～7月18日	4学年次定期試験
7月16日～8月18日	5学年次夏季休業
7月16日～9月1日	6学年次夏季休業
7月18日～7月19日	3学年次定期試験
7月19日～7月26日	4学年次地域医療早期体験実習
7月22日～7月26日	2学年次定期試験
7月22日～8月2日	1学年次定期試験
7月29日～8月2日	2学年次外来案内実習
7月29日～8月18日	4学年次夏季休業
7月29日～8月25日	3学年次夏季休業
8月5日～9月1日	1・2学年次夏季休業
8月22日	4学年次共用試験CBT
8月26日	3学年次後学期授業開始
8月31日～9月1日	4学年次共用試験Pre-CC OSCE
9月2日	1・2学年次後学期授業開始
9月2日～9月13日	3学年次地域包括ケア実習
9月27日	4学年次後学期授業開始
10月7日	6学年次後学期授業開始
10月10日	5学年次後学期授業開始
10月10日～10月11日	5・6学年次総合試験B
10月12日	4学年次白衣式
10月17日	1～3学年次防災訓練
10月21日～10月25日	1学年次早期体験実習1c(臨床科見学実習)
11月2日～11月3日	医大祭
11月15日～11月22日	2学年次チーム医療実習
11月25日～11月29日	2学年次地域社会医学実習
12月9日～12月13日	1・2学年次定期試験
12月16日～12月20日	
12月19日～12月20日	3学年次定期試験
12月23日～1月5日	1～6学年次冬季休業
1月18日	4・5学年次総合試験C
3月1日	卒業証書・学位記授与式
3月3日～3月31日	1～3・6学年次春季休業
3月17日～3月31日	4・5学年次春季休業

看 護 学 部	
4月5日	2～4学年次前学期授業開始
4月7日	入学式
4月8日～4月12日	新入生ガイダンス・新入生研修
4月9日	1・2学年次学生定期健康診断
4月15日	1学年次前学期授業開始
4月19日	3・4学年次学生定期健康診断
5月2日	4学年次定期試験
6月8日	2学年次キャンドルセレモニー
6月25日～6月28日	2学年次定期試験
7月22日～7月26日	3学年次定期試験
7月22日～9月5日	4学年次夏季休業
7月29日～9月16日	3学年次夏季休業
8月5日～8月9日	1学年次定期試験
8月5日～9月9日	2学年次夏季休業
8月13日～9月16日	1学年次夏季休業
9月6日	4学年次後学期授業開始
9月10日	2学年次後学期授業開始
9月17日	1・3学年次後学期授業開始
10月17日	総合防災訓練
11月2日～11月3日	医大祭
12月23日～1月5日	2・3学年次冬季休業
12月23日～1月6日	1学年次冬季休業
12月24日～1月6日	4学年次冬季休業
1月21日～1月22日	3学年次定期試験
1月27日～1月31日	1学年次定期試験
2月3日～2月7日	2学年次定期試験
2月3日～3月31日	1学年次春季休業
2月10日～3月31日	2学年次春季休業
2月25日～3月31日	3学年次春季休業
3月1日	卒業証書・学位記授与式
3月3日～3月31日	4学年次春季休業

## 加齢医科学研究所40周年記念事業実施

令和5年10月27日（金）及び12月23日（土）の2日間、加齢医科学研究所40周年記念事業として、学術講演会及び市民公開講座が開催されました。

10月27日（金）は、大学本館301講義室において、研究者の方々を対象とした学術講演会が開催されました。開催に当たり、祖父江元 学長から、同研究所設置の背景や歴史について説明がありました。続いて、講演会が「神経難病の克服を目指して～病態解明研究から治療開発研究へ～」をテーマに、加齢医科学研究所長の岩崎靖教授から「神経病理学的研究から探るプリオン病の病態」、加齢医科学研究所神経病理研究部門の吉田眞理特命研究教授から「神経疾患はどうして進行するのかーブレインバンクの病態解明への貢献ー」、加齢医科学研究所神経iPS細胞研究部門の岡田洋平教授から「iPS細胞を用いた神経変性疾患の病態解明・治療開発研究」と題した3部構成で行われました。各講演後には、研究者間で活発に意見交換が行われ、その後、笠井謙次医学部長から閉会のあいさつがあり、盛況裏に終了しました。

また、12月23日（土）には、大学本館たちばなホールにおいて、一般市民の方々を対象とした公開講座が開催されました。祖父江学長による開会のあいさつの後、「いつまでも健康な脳を保つために～神経難病の克服を目指して～」をテーマに、加齢医科学研究所長の岩崎教授から「認知症の脳はどうなっているの?」、病院長・内科学講座（神経内科）の道勇学教授から「難病患者さんの療養支援～愛知県難病診療ネットワーク」、加齢医科学研究所神経iPS細胞研究部門の岡田教授から「iPS細胞で何ができるのか～神経難病克服への挑戦～」と題した3部構成による講演が行われました。その後、笠井医学部長から閉会のあいさつがあり、盛況裏に終了しました。

加齢医科学研究所は、現在、本邦の神経病理学及びiPS研究の重要な研究所となっていますが、今年40周年という一つの節目を迎え、これまでの学内外の皆さまのご理解やご支援に深謝するとともに、より質の高い発展性のある研究の発信を使命とし、スタッフ一丸となり今後も取り組んでいきます。

## 医学教育者のためのワークショップ開催

今年度の医学教育者のためのワークショップ（学内ワークショップ）は、令和5年12月1日（金）・2日（土）に開催されました。テーマは「人間形成と創造性の啓発を図る一貫性のある教育をめざして」とし、新たに赴任・昇任した教員を中心に参加いただきました。

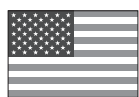
このワークショップの目的は、本学の医学教育の目標を再認識し、建学の精神を基に、どのような医学教育がこのコロナ禍に必要とされているのかを議論することです。1日目は、「現在の愛知医科大学の教育の課題」について議論し、コンピテンス・コンピテンシーの学生による自己評価結果を共有し、到達度の低い項目について議論しました。プロフェッショナルナリズム教育（宮田靖志先生）や学修支援の現状（河合聖子先生）について、情報共有が行われました。

2日目は、AIDLE-Kの使い方（橋本貴宏先生）、シミュレーションセンターの活用（船木淳先生）、最近の学生像（宮本淳先生）について情報を共有し、「ジョイントセッションの構築（神谷英紀先生）」、「上手い教育のための七つのポイント（伴信太郎先生）」についてグループ議論が行われました。

また、本年度は、2名の外部講師をお招きし、高村昭輝先生（富山大学医学教育学）には、「difficult teaching encounter」として、指導困難・学習困難な場面でどう対処するか、杉浦真由美先生（北海道大学大学院教育推進機構）には、「インストラクショナルデザイン」として、授業の設計についての議論が行われました。いずれのセッションでも多くの質疑応答があり、充実した内容となりました。



## 国際交流



### アメリカ合衆国南イリノイ大学医学部教員来学 ～更なる相互交流の発展を目指して～

本学医学部では、平成17年3月から南イリノイ大学（Southern Illinois University School of Medicine：SIU）との学術国際交流を行っており、教員の招へいや相互に学生の派遣・受け入れを行っています。

例年本学からは、5学年次生を対象とした臨床実習に参加するコースと、3・4学年次生を対象としたSIU 2年生カリキュラムを受講するコースの二つのコースへ学生を派遣しています。令和5年11月8日（水）、9日（木）の2日間にわたり、この学生の受け入れに多大なご協力をいただいているSIUのKaren Broquet先生（精神科学講座・教授）及びDiana Sarko先生（解剖学講座・准教授）が来学され、本学の視察や学生・教員との交流を行いました。

今回の来学では、祖父江元 理事長・学長への表敬訪問や、来学された先生方による「Graduate Medical Education in the United States」及び「Teaching Philosophy and Effective Strategies for Student Engagement to Train Tomorrow's Healers and Leaders」について講演が行われました。SIUでは、先駆的な教育カリキュラムの開発と充実した医学教育システムの整備を重点的に行っており、この講演では、これらに関する知識や理解を深める良い機会となりました。

また、SIUへ派遣予定である医学部5学年次生に対するケースプレゼンテーションの指導だけでなく、3・



祖父江理事長・学長への表敬訪問

4学年次生に対しても、SIUで行われているPBL（問題立脚型学習）や医療英語の指導をしていただきました。指導後には、派遣学生との懇談会も行われ、学生にとっては、指導を受けた際の緊張感から解放され、積極的に先生方とコミュニケーションを図り、親睦を深めることができました。更に、派遣に向けての新たな学修課題を形成できる良い機会となり、モチベーション向上へと繋がったようです。

このように、例年のSIU教員の来学は、両大学の相互交流の更なる発展に大いに役立っています。医学部では、今後も引き続き、学術国際交流協定校等の開拓に努め、更に多くの学生に海外留学へのチャンスを与えると同時に、海外大学の学生の受け入れを通して、学生が国際的な視野を広げる一助になるよう一層努力していきます。

### ハワイ医学教育プログラム(HMEP)留学体験記

本学医学部では、令和4年9月から一般社団法人JrSrが運営するハワイ医学教育プログラム（HMEP）に加盟し、オンライン学修と臨床実習を融合した米国式教育を学生等に提供しています。

令和5年度は、1名の学生が臨床実習に参加しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

- ・ Clinical Clerkship Preparation Program（HCCPP）（ハワイ実習）

令和5年8月18日（金）～28日（月）

- ・ Clinical Clerkship (HMEPCC) (日本国内で行うハワイ式臨床実習)

令和5年11月13日(月)～12月8日(金)

※ 両コースへの参加がセットとなっているプログラムです。

医学部5学年次生 高柳志津子

夏休み中にハワイ医学教育プログラム(HMEP)を通してハワイ大学の医学部であるJohn A. Burns School of Medicineに1週間留学に行く機会をいただきました。ハワイで活躍されている日本人の先生方のクリニックや病院を見学させていただいたり、ハワイ大学の医学部生とともにProblem-Based Learningに参加したり、模擬患者の診察をしたりしました。

空き時間には、日本の他大学の学生や、ハワイ大学の学生とハワイの美しい海や山を見に行ったり、ご飯に行ったりしました。短い留学ではありましたが、素敵な出会いがたくさんあり、毎日充実していて非常に濃い1週間でした。

次に、クリニカルクラークシップBの1クール分、HMEPCCとして4週間、静岡医療センターで外科の実習に参加させていただきました。実習は基本的に朝チーム回診について行き、その後オペに参加するという内容でした。その他、救急外来に搬送され



HCCPPコース：PBLの様子(本人：奥列一番右)

る患者の初診を行ったり、空いている時間に縫合や採血の練習をしたりしました。月に一度行われる英語のカンファレンスで自分が経験した症例について発表する機会もいただきました。

静岡医療センターは海外志向の先生方が多く、自分のキャリア形成を考える上で有用な情報をたくさんいただきました。大学病院とは異なる臨床現場を見ることができて、とても充実した学びの場でした。

## 令和4年度 ベストティーチャー賞表彰

令和4年度のベストティーチャー賞が決定しましたのでご紹介します。

同賞は、平成29年度から導入された制度で、学生が行う各科目の授業評価アンケート結果により、教育方法や教育内容等が高く評価された教員を表彰するものです。

今回は、大学院(医学研究科・看護学研究科)及び学部(医学部・看護学部)から合わせて7名の教員がベストティーチャーに選出されました。

今後も授業改善に向けた取り組みの一環として、評価の高い教員を顕彰し、学生の教育意欲の向上と大学教育の活性化を図ります。

ベストティーチャー賞受賞者は次のとおりです。

### 大学院

- 医学研究科
  - ・若槻明彦教授(産婦人科学講座)
- 看護学研究科
  - ・若杉里実教授(公衆衛生看護学領域)

### 学部

- 医学部
  - ・内藤宗和教授(解剖学講座)
  - ・岡田尚志郎教授(薬理学講座)
  - ・春日井邦夫教授(内科学講座(消化管内科))
- 看護学部
  - ・篠田かおる准教授(基礎看護学領域)
  - ・山中 真教授(基礎看護学領域)

## 医学部学生表彰（優秀発表賞）

令和5年11月8日（水）午後5時30分から大学本館役員会議室1において、他の模範となる学生への表彰が行われ、5学年次生2名及び3学年次生4名の合計6名に対し、祖父江元学長から表彰状と記念品が授与されました。

令和5年7月28日（金）から7月29日（土）までの間に開催された「第55回日本医学教育学会」の学生発表において、富田明日香さん（5学年次）、中村天音さん（5学年次）、猪口貴志さん（3学年次）、梶浦大輝さん（3学年次）、線崎奏夢さん（3学年次）、新美友太朗さん（3学年次）が、優秀発表賞を受賞



祖父江学長との記念撮影

しました。

今後も表彰される学生が続くことを期待します。

## 医学部学生表彰（西医体優勝）

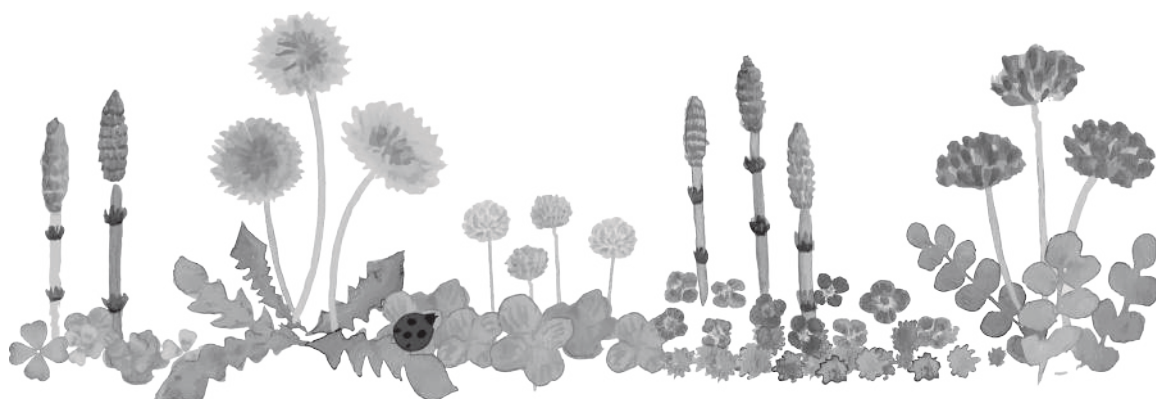
令和5年12月21日（木）午後4時30分から大学本館役員会議室1において、他の模範となる学生への表彰が行われ、3学年次生の奥田知宏さんに対し、祖父江元学長から表彰状と記念品が授与されました。

奥田さんは、令和5年8月5日（土）から8月20日（日）までの間に開催された「第75回西日本医科学生総合体育大会（西医体）」の陸上競技：男子砲丸投げにおいて、優勝されました。

今後も表彰される学生が続くことを期待します。



祖父江学長及び役職者との記念撮影





## 第48回愛知医科大学医大祭開催

令和5年11月3日（金・祝）・4日（土）の2日間にかけて第48回医大祭が開催されました。

今年の医大祭では、4年ぶりに飲食物の提供が再開されました。再開に当たり、瀬戸保健所と連携して食中毒予防に関する講習会を開催し、食材の調達から調理・提供までのプロセスを学ぶことで、SDGsの目標である「つくる責任、つかう責任」を考えることができました。

また、毎年好評のリサイクルマーケットに加え、尾三消防本部長久手消防署にご協力いただき、VRを用いた消火体験や煙ハウス体験など、多くの方が楽しめるイベントが企画されました。

更に、病院が企画した「オープンホスピタル」との同時開催により、当日は地域住民を始め多くの方に足を運んでいただきました。誠にありがとうございました。

### 【イベント概要】

#### ☆ 期間中開催

- ・ 模擬店（15店舗）
- ・ 医学ラボ
- ・ リサイクルマーケット

#### ☆ 11月3日（金・祝）

- ・ 消防体験
- ・ 献血
- ・ 野外ステージ（軽音ライブ、有志企画）
- ・ 球技大会（フットサル、ソフトボール）
- ・ ラグビーエキシビジョンマッチ

#### ☆ 11月4日（土）

- ・ 野外ステージ（軽音ライブ、有志企画、ビンゴ大会）
- ・ 球技大会（ソフトボール、バレーボール）
- ・ クラブ対抗リレー

## 医大祭に寄せて

実行委員長 医学部3学年次生 丹羽琢磨

今年の医大祭テーマは「サステナブルなフェスティバル」でした。昨今、持続可能な開発目標、通称SDGsという言葉がメディアなどで耳にする機会が多くなりました。そんなサステナブルな社会への関心が高まる中、どんな人でも参加できて楽しめる医大祭でありたい、そして、今ある暮らし、教育、自然環境を未来まで引き継いでいきたいという思いを込めて、「サステナブルなフェスティバル」というテーマを掲げました。医大祭を通じてSDGsの目標達成に貢献できるように、医大祭実行委員会を中心に約半年間、準備を進めて参りました。

当日は天候にも恵まれ、大変多くの方々にご来場いただくことができました。今年は愛知医科大学病院の催し物であるオープンホスピタルとの同時開催（11月3日）となったことも大きく影響したと思います。医学ラボ、消防体験、ビンゴ大会、球技大会、クラブ対抗リレーなど多くの企画が実施されましたが、中でも学生にとって特に印象に残ったものは模擬店ではないでしょうか。昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施できなかった飲食物の



4年ぶりに盛り上がった模擬店

提供が今年は解禁され、多くのクラブが飲食物の出店を行いました。学生にとっては食中毒や食糧廃棄を学ぶ機会となり、SDGsの目標の一つである「つくる責任、つかう責任」を考えることができました。

最後になりますが、今年の医大祭は多方面の方々からご支援を賜り、無事成功を収めることができました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



## 看護学部体験入学開催

令和5年12月23日（土）看護学部実習室において「看護学部体験入学」が開催されました。本企画は高校生が看護学部における講義を体験することにより、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めていただくことを目的として開催しています。

当日は36名の高校生が参加し、基礎看護学の板津良助教による体験授業「フィジカルアセスメント～看護師が行う聴診～」及び体験演習「聴診器を使って身体の音を聴いてみよう！」を行いました。授業では、看護師が行う聴診や音の聞き分けを学び、その後の演習で聴診器を使用してモデル人形の呼吸音や心音などを聴き、聴診の仕方を学びました。最後に、看護学部生が説明をしながら実習室や教室を見学しました。

参加した高校生からは、「普段はあまり聴くことの



聴診器を使った体験授業

できない高調性連続性副雑音など、通常の呼吸音との違いを聴くことができました。」「実際に授業で使っている施設をたくさん見学できて、看護師になりたいという気持ちが一層高まりました。」などの感想が寄せられ、参加した高校生にとっては、看護学の一端を学ぶ有意義な体験となったことと思います。

## 「看護の魅力を発信！」魅力たっぷりのイベント参画

令和5年12月25日（月）に名古屋国際センターにてイベント「看護の魅力を発信！」が開催されました。本イベントは本学看護学部を含む愛知県内の私立看護系大学13校が日本私立看護系大学協会の地区活動プロジェクトモデル事業の助成を受け、協力して企画をして取り組んだものです。

イベントの対象者は、将来看護職を目指す中・高校生であり、保護者や進路指導の先生方にも積極的に参加を呼びかけました。イベントでは看護のリアルをVRで体験するコーナー、幅広い分野で活躍する看護職の先輩たちや学生たちの話が聞ける講演、気軽に質問したり話ができる座談会、若い世代に身近なAYA世代のがん支援を知るコーナー、記念写真を撮影できるPHOTO SPOT、クイズラリーで各大学のノベルティグッズや記念品のプレゼントなど、若い世代の参加者が楽しみながら看護について知る工夫が凝らされており、参加者にも大変好評でした。

（一社）日本私立看護系大学協会「地区活動プロジェクトモデル事業」の助成を受けて開催します。

# 看護の魅力を発信!

## 2023. 12.25 Mon

AM 10:00~12:00 / PM 13:30~15:30  
(受付は9:30~)

●名古屋国際センター  
(名古屋駅から徒歩7分)

### 魅力いっぱいイベント!

愛知県の私立看護系大学13校が協力し、中学生や高校生に看護について知っていただくイベントを企画しました。

対象：中学生・高校生・保護者・進路指導担当の先生

- きらきらナース☆ナースのたまごの話聞いてみよう☆多岐の先輩や学生が看護の魅力を語り合えます。
- VRで見てみよう! ナースのリアル、あなたの未来がここにある。
- 特別HPで詳細をCheck!
- がん患者さんへの支援を知ろう! AYA世代ががんのことを知ることができます。
- ステキな特典がいっぱい! 参加アンケートに回答して素敵な記念グッズをゲット!
- 看護部を自慢したいんだけど... 親や先生があなたの将来におかえします。
- 魅力発信記念撮影! 「おうちの看護の魅力を伝えたい!」の思いを写真に残りませんか?
- クイズラリーに挑戦して大学ノベルティグッズももらえるよ。

参加には右記QRから事前申し込みが必要です。

主催：愛知県内日本私立看護系大学協会加盟校  
愛知医科大学・福岡医科大学・金澤医科大学・東海大学・岡山山陽大学・中部大学・星薬科大学 / 名古屋学院大学 / 名古屋女子大学 / 日本赤十字看護大学 / 日本福祉大学 / 人間福祉大学 / 豊田医科大学 (E+10部)

後援：愛知県看護協会

イベント開催に当たり、愛知医科大学病院を始め愛知県の医療機関の皆さまにご協力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

## 看護連携型ユニフィケーション推進事業 令和5年度卒業前研修「静脈血採血」実施

令和3年度から開始された看護連携型ユニフィケーション推進事業の一環として、令和5年11月6日（月）に看護学部4学年次生を対象に静脈血採血の卒業前研修（講義・演習）が看護学部・看護部共同（看護学部教員3名，看護部看護教育委員会6名，臨床指導者20名）で実施されました。この卒業前研修は，継続教育の充実に焦点を当てた教育計画の一部であり，令和3年度「経管栄養」，令和4年度「静脈血採血」に引き続き実施されました。

研修では，実際の手順や看護師の臨床判断に着目し，患者さんの観察やリーダー看護師への報告の視点について，より理解が深まるように作成された動画が事前課題及び演習の振り返りで使用されました。また，講義では知識の振り返り，臨床での実際が紹介され，演習では臨床指導者から臨床での経験に基づいた説明とフィードバックが行われました。



卒業前研修の様子

学生からは，「将来のモデルとなる指導者から助言を得られる貴重な機会となった。」，「自分が働くことが想像できた。」などの意見があり，臨床看護師の考え方を学ぶ機会及び学修の動機付けに繋がりました。また，臨床看護師にとっては，学生の現状を知り，自己の指導力を向上する機会となりました。

## 看護学部学生就職フォーラム開催

令和6年1月24日（水）午後4時15分から看護学部棟講義室において，看護学部3学年次生を対象とした看護部主催「学生就職フォーラム」が開催されました。【写真】

昨年度まではコロナ禍により，対面での開催ができませんでしたが，今年度は，雪の降る寒い日にもかかわらず，100名近い看護学部生の参加がありました。

当日は，看護部の教育体制や福利厚生に関することを説明した後，新人看護師が配属される全部署が「大切にしている看護」，「部署での様子」を写真やイラストなどで紹介しました。学生からは，就職に関



する質問などがあり，短い間ではありましたが看護師と学生との貴重な時間の共有となりました。



## 看護学部進路懇談会開催

令和5年12月25日（月）午前9時からC棟C202講義室において、3学年次生を対象に「看護学部進路懇談会」が開催されました。

この企画は、履歴書書き方講座応用編、卒業生による体験談発表及び懇談会で構成しており、まず、履歴書書き方講座応用編では、前回行われた履歴書書き方講座基礎編を踏まえて履歴書の完成度を高めました。

卒業生による体験談発表では、看護師、保健師、助産師として活躍する卒業生3名に、「就職・進学先を決定した動機やエピソード、現在の看護実践の状況、仕事を含めた生活等」についてリレー方式でお話いただきました。

懇談会では、卒業生に職種別の懇談室へ移動していただき、3学年次生は自分が希望する職種の卒業生から様々なアドバイスを受けることができました。

開催後に行ったアンケートでは、「履歴書を書くに当たり、自己分析をする良い機会になった。」「卒業生の方から実際の体験談を聞くことができ、よ



体験談発表の様子



懇談会の様子

り進路が明確になった。」などの意見が寄せられました。

## 看護学研究科NPコース開設10周年記念セミナー開催

令和5年11月23日（木・祝）午前10時から看護学部棟N201講義室において、愛知医科大学大学院看護学研究科高度実践看護師（診療看護師[NP]）コース開設10周年記念セミナー「ナース・プラクティショナーのアイデンティティ」が開催され、多くの方々にご参加いただきました。【写真】

第1部では、基調講演として、公益社団法人日本看護協会副会長の山本則子氏に「ナース・プラクティショナー（仮称）の将来を考える」、放送大学大学院教授・名古屋大学名誉教授の山内豊明氏に「医師・看護師の視点から考えるナース・プラクティショナーのアイデンティティ」についてご講演いただきました。

また、特別講演として、公益社団法人地域医療振興協会JADECORPアカデミーNP・NDC研修センター・東京北医療保健センター総合診療科診療看護師（NP）の筑井菜々子氏に「診療看護師（NP）の



アイデンティティ」についてご講演いただきました。

第2部では、シンポジウム「修了生の実践から考える診療看護師（NP）のアイデンティティ」について、4名の修了生に発表いただきました。

活発なディスカッションにより、ナース・プラクティショナーのアイデンティティを深める有意義な機会となりました。

## 看護実践研究センター 地域連携・支援部門 令和5年度長久手市市内一斉防災訓練へ参加

令和5年11月19日(日)午前9時から開催された長久手市市内一斉防災訓練に、本学看護実践研究センター地域連携・支援部門の山本恵美子准教授、二村純子講師、志水己幸助教と9名の看護学部生が参加しました。

訓練では、指定避難所である市が洞小学校体育館において、自治会役員や近隣施設から避難行動訓練に参加された方々に、健康確認・血圧測定とインタビュー、ローリングストックの啓発、モデル人形を使った一次救命処置体験のサポートが行われました。

訓練参加者からは、避難経路の安全性、雨の日の避難行動や高齢者・ペットを連れた避難の難しさ、日頃の備えの現状や思いなど、多くの声を聴き取ることができ、主催者である長久手市役所と共有しました。

これらの活動を通し、学生らは地域の方々の防災



参加学生による健康確認・血圧測定

知識や救命スキルの向上に貢献できたことにやりがいを感じるとともに、防災への考えを深めていました。今後も、看護実践研究センター地域連携・支援部門では、地域住民のニーズに即した健康支援活動を行っていきます。

## 看護実践研究センター キャリア支援部門 臨床看護セミナー開催

令和5年11月25日(土)午前10時から、看護実践研究センターキャリア支援部門臨床看護セミナー「呼吸・循環アセスメントを次のレベルへ～もっと知りたい看護師のために～」がオンラインで開催されました。中部地方を中心として、新人看護師からベテラン看護師まで60名が参加されました。

講師には昨年に引き続き、急性期看護の分野で豊富な経験を有する、本院急性・重症看護専門看護師の上野沙織氏をお招きしました。【写真】

講義では、看護師の行うフィジカルアセスメントの重要性から、観察項目を覚えるのではなく「見つける力を養う」ことが大切であると説明され、呼吸と循環のメカニズムを分かりやすく解説していただき、観察のポイントの理解に繋がりました。また、アンケート機能を用いた双方向性のセミナーであり、参加者が考えながら学ぶことができました。

セミナー後のアンケートでは、「自分の五感を使



うことが大切であると学べた。」、「1年目で勉強途中だが今後のアセスメントに役立てることを学べた。」、「明日からのフィジカルアセスメントが楽しみになった。」などの感想が多数寄せられました。呼吸と循環のアセスメントを基本から振り返ることで、参加者の方の実践の基盤として明日から活用できる内容のセミナーとなりました。

## 令和6年能登半島地震における愛知医科大学病院の対応

令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々に心より哀悼の意を捧げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

本院では令和6年1月1日（月）夕方の地震発生後速やかに病院災害対策本部を立ち上げ、翌日からは厚生労働省DMAT事務局や愛知県の要請に基づき、DMAT（災害派遣医療チーム）、DPAT（災害派遣精神医療チーム）を続けて派遣しております。

また、令和5年4月に配備した「コンテナ医療ユニット（CoMU）」も1月7日（日）から2機ともに被災地に向けて出発しました。石川県鳳珠郡穴水町にある公立穴水総合病院に一旦配備され、その後は輪島市門前保健センターに設置されています。

加えて、「大規模災害時におけるドクターヘリ広域

連携に関する基本協定」に基づき、中部ブロックで運航されるドクターヘリの基地病院が連携して、被災地での医療救護活動に当たっています。

その他、日本私立医科大学協会からの要請に応える形で金沢医科大学病院に看護師1名を派遣しました。

令和6年1月末時点においても、今もなお2万人近い方々の厳しい避難生活が続いているという報道がされています。

本院では、今後も関係機関・団体等からの要請にいつでも応えられるよう体制を整えております。

## ドクターヘリ運航20周年記念シンポジウム開催

本院は、平成14年1月に全国で4番目にドクターヘリ運航事業を開始し、令和4年1月で運航20周年を迎えました。

令和5年12月10日（日）大学本館たちばなホールにおいて、これまで安全運航を継続してきた一つの節目として「ドクターヘリ運航20周年記念シンポジウム」が開催されました。

始めに、救命救急科の渡邊栄三部長から開会のあいさつがあり、大村秀章愛知県知事、認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク（HEM-Net）の鷺坂長美理事長からご祝辞を賜りました。

続いて、衆議院議員で、日本医科大学特任教授である松本尚先生により、「ドクターヘリ～これまでとこれから～」というテーマで基調講演が行われました。わが国におけるドクターヘリ導入実現に力を尽くされ、ドクターヘリによる病院前救急診療の第一人者でもある松本先生には、ドクターヘリの過去・現在・未来についてや、先生ご自身が携わってきたドクターヘリの普及・啓発のための活動などについて、大変分かりやすくご講演いただきました。



座談会の様子

最後に、本院ドクターヘリ導入当時に大きな役割を果たされた野口宏名誉教授、井上保介客員教授、坂田久美子看護学部臨床教授、中日本航空株式会社航空事業本部付専任部長の丹羽政晴氏により、「愛知医科大学病院におけるドクターヘリコプター導入の経緯と必要性」というテーマで座談会が行われ、20年を振り返りながら、当時の苦労話や今後のドクターヘリが果たすべき役割について意見が交わされました。

当日は本院における歴代功労者や、県内の医療機関、消防機関などから約200名の参加がありました。



## ドローンによる医療コンテナへの医療物資往復輸送実証実験に参画

令和5年11月15日（水）に、豊田市下山地区において実施された「ドローンによる医療コンテナへの医療物資の往復輸送の実証実験」に、連携事業者として本院も参画しました。

この事業は、愛知県が実施する「あいちモビリティイノベーションプロジェクト～空と道がつながる愛知モデル2030～」の一環として、ドローンや空飛ぶクルマ等の「空」モビリティの社会実装の早期化を目指して実施されたもので、当日は、「世界ラリー選手権（WRC）」に参加したラリーカーが横転してドライバーが怪我をした想定で実証実験が行われました。

ラリーコース近くの仮設診療所として設置された医療コンテナ（本院提供）に搬送されたドライバーの血圧低下を確認し、輸血が必要と判断されると、輸血用血液製剤や開胸セット等の手術器具等のドローンでの輸送を依頼しました。無事到着したドローンにより運び込まれた医療物資を使用して手術



救急集中治療医学講座の渡邊栄三教授（中央）解説の下でドローン運搬物資を取り出す医療スタッフ

を開始し、手術後は、使用された器具や廃棄物を再度ドローンに積み込んで飛び立っていく、といった一連の過程が検証され、災害時やイベントで活用される医療コンテナとドローン輸送を連携させる実証実験は無事終了しました。

今後も本院は、愛知県とともに、災害時に人々を助ける仕組みを構築して参ります。

## オープンホスピタル2023開催

令和5年11月3日（金・祝）大学本館1階を会場にオープンホスピタル2023（医大祭出張版）が4年ぶりに開催されました。

令和2年から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず開催を見送っておりましたが、令和5年5月に同感染症が「5類感染症」に移行したこともあり、会場を大学本館に移して、「医大祭出張版」という形で開催しました。

当日は、各部署の協力の下、児童向けの体験ブースや介護関連食品・流動食の試飲・試食ブースが並び、約350名の方々にご来場いただきました。イベント開始前から多くの参加者が集まり、昼頃には全ての体験ブースの整理券が配られるほど盛況で、「次回は病院で開催してほしい。」「ドクターヘリを間近で見てみたい。」「看護師さんの仕事をもっと知



りたい。」等の感想が寄せられました。

次回イベント開催の際は新型コロナウイルス感染症の動向を注視しつつ、可能であれば院内での開催を検討しておりますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

## 医療法第25条の規定に基づく病院立入検査実施

令和5年11月9日（木）に、医療法第25条の規定に基づく本院立入検査等が実施されました。医療法の規定に基づく立入検査及び精神科病院実地指導は毎年行われるものですが、ここ3年間はコロナ禍の影響により規模を縮小して実施されてきました。

今年は3年ぶりに、病棟を始めとした病院内各所のラウンドや現場で働く職員への聞き取り調査など全ての項目が実施されました。

また、本院においては初めて精神科病院実地指導にあわせて実地審査が実施され、入院患者との面談や療養環境の確認などが行われました。

いずれの検査等においても、重大な指摘事項はあ

りませんでした。数点指摘のあった口頭指導事項については、既に改善のための取り組みを始めており、早急な解消に努めて参ります。

### <立入検査>

- ・ 医療法第25条第3項の規定に基づく立入検査(厚生労働省・東海北陸厚生局)
- ・ 医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査(愛知県・瀬戸保健所)
- ・ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第38条の6に規定する実地指導及び実地審査(愛知県・瀬戸保健所)

## 医療安全推進週間

～患者さんとともに医療安全！～

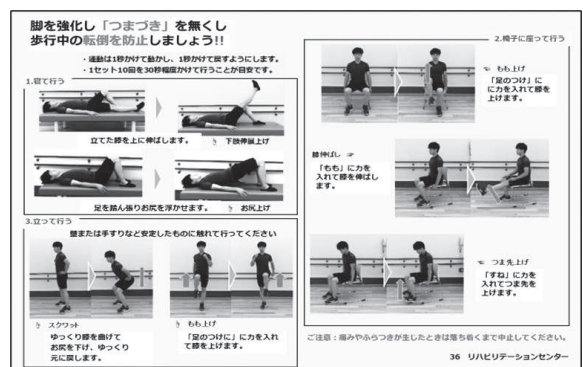
厚生労働省は、11月25日（いい医療に向かってGO）を含む1週間を「医療安全推進週間」と定めており、本院ではこの推進週間の協賛事業として「コロナの中でも医療安全」をテーマに、患者さんの医療参加を促進するイベントが令和5年11月20日（月）から22日（水）まで実施されました。

イベントでは特設ブースを設け、ご来院の方への医療安全リーフレットの配布や、「～私の部署の安全宣言～」と題した院内37部署の医療安全に対する取り組み紹介のポスター展示が行われました。

医療安全リーフレットは、「安全な医療を受けて

いただくためにご協力をいただきたいこと」の10項目と、「転倒転落防止」に役立つ家でできる運動をまとめたもので、患者さん・ご家族にお渡ししながら医療参加を呼び掛けました。

また、患者さんに対し、受診や検査等の際にフルネームを名乗ったかどうかの聞き取り調査をしたところ、84%の方しか名乗っておらず、「病気について聞きたくても、忙しそうで目が合わず、スタッフに声を掛けづらい。」などのご意見もいただきました。職員にとって声掛けの重要性を再認識する必要があることを示すものとなりました。



「安全な医療を受けていただくためにご協力をいただきたいこと」(左)  
「転倒転落防止に役立つ家でできる運動」(右) リーフレット

## 助産師外来開始

愛知医科大学病院地域周産期母子医療センター産科病棟では、母子の健康医療の充実のため、助産師・看護師が懸命に業務に当たっています。看護部では令和2年度から助産師の専門性の発揮、役割拡大のために院内助産、助産師外来の開設に向けて取り組んできました。そして、令和5年11月から毎週月曜日に助産師外来が試験的に開始されることとなりました。

助産師外来では、正常経過の妊産婦を対象に、助産師による健康診査と保健指導を実施し、正常産を担う準備を整えています。今後、助産師外来の運用が定着し、助産師が主体的に妊婦健診を行うことで、専門性の発揮、産科医の負担軽減に繋がることを期待しています。



子ども・家族中心のケア（Family-Centered Care：FCC）を重視する周産期センターとして、妊娠期から継続して子育て支援を強化していきたいと思えます。

## ナーシングフェスタ2023開催

ナーシングフェスタは、令和元年度に「看護の楽しさ、素晴らしさを分かち合うお祭りをしよう！」を趣旨に、看護研究発表会の新たな形としてスタートしました。設立50周年を迎えた本院看護部では、令和5年12月2日（土）に「ナーシングフェスタ2023」が4年ぶりに対面開催され、コロナ禍の影響によりZoomも用いたハイブリット開催となりました。



研究結果発表の様子

テーマを『Growing up！～研究成果を看護実践に～』とし、看護研究発表会では、メディカルセンターを含む18部署の興味深い研究結果が発表されました。そして、特別講演として看護学部



企画ブースの様子

特命教育教授の高橋照子先生に、「看護の魅力」についてお話いただきました。

また、企画ブースでは、チーム活動、専門・認定看護師、特定行為看護師、診療看護師が、オリジナリティ溢れる方法でそれぞれの専門性を発揮し、参加者は、院内で育まれた看護への情熱を知る機会となりました。



## 小児科病棟クリスマス会 ☆病室にサンタクロースがやってきた☆

令和5年12月21日（木）午後3時から8A病棟プレイルームにおいて、小児科医局の協力の下、クリスマス会が行われました【写真】

当日は、スタッフによるバイオリンを始めとした、様々な楽器での演奏とともに子供たちと楽しくクリスマスソングを歌いました。最後にはサン

タクロースとトナカイが登場し、子供たち一人ひとりにプレゼントが手渡され、プレゼントを手にした子供たちは満面の笑みを浮かべていました。ご家族の方々にとっても楽しい時間を過ごすことができたようです。



## 岡崎3病院集合！糖尿病予防イベント開催 ～健康なカラダづくりin籠田公園～

令和5年11月12日（日）岡崎市の籠田公園において、岡崎市民病院、藤田医科大学岡崎医療センター、愛知医科大学メディカルセンターの3病院が集合し、「糖尿病予防イベント」が開催されました。

イベント開催に当たっては、加藤義郎副院長（糖尿病内科・教授(特任)）が中心となり、3病院で何度も打合せを重ね準備を進めてきました。本センターからは、加藤副院長を始め、糖尿病内科医師1名、管理栄養士2名、臨床検査技師1名、理学療法士1名、看護師3名、事務職員1名の多職種の職員が参加しました。

午前中は、血糖値を下げるウォーキングとして、籠田公園から岡崎城までの「ウォークラリー」が実施され、午後からは糖尿病専門医考案の「青空健康体操」で筋肉を鍛えました。また、併せて血糖値測定や医師らによる健康相談も実施されました。

中根康浩岡崎市長もおみえになり、多数の方々にご参加いただき盛大に終えることができました。今後も、近隣の病院と協力し、地域住民への啓発活動や糖尿病治療継続の重要性の周知について尽力して参ります。



3病院での集合写真



ウォークラリーの様子



血糖測定、医師健康相談の様子

## 眼科クリニックMiRAI 保健所による立入検査実施

令和5年12月7日（木）に施設としては平成26年5月以来であり、眼科クリニックMiRAIとしては初めての名古屋市保健所中保健センターによる立入検査が実施されました。【写真】

医師法第25条第1項の規定に基づく立入検査は、病院・診療所等が法令により規定された人員及び構造設備を有し、かつ、適正な管理を行っているか否かについて検査し、不適正な場合は指導等を通じ改善を図ることにより、病院・診療所等を良質で適正な医療を行う場に相応しいものとすることを目的に実施されています。

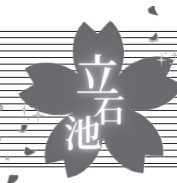
当日は2名の検査員にお越しいただき、職員の健康管理、医療安全管理体制の確保、院内感染防止対策、医療廃棄物の適正処理、医薬品及び医療



機器に係る安全管理体制、サイバーセキュリティ対策、個人情報の適切な取り扱い等について書面による確認があり、クリニック内のラウンドも行われました。

今後も改善に努め、更なる質の向上を計り、患者さんから選ばれるクリニックを目指していきます。

## 一般財団法人愛知医科大学愛恵会トピックス 立石池「桜」の整備事業



本学の病院前には、長久手市が所有管理している「立石池」があり、その周囲にはたくさんの桜の木が植えられて、毎年3～4月には、とてもきれいな花を観ることができます。

この風景は、本学開学以来、「愛知医大の名所」としてともに歴史を歩んできたものですが、既に50年近くの歳月を経て、桜たちもかなり老木となり、近くで見ると、折れているところや枯れている桜も多数あり、世代交代の時期を迎えています。

ここ数年内に桜の整備（古木の延命、新しい苗木の植樹等）をしないと、立石池の桜が全滅する恐れがあり、今までのような桜の時期を楽しむことができなくなります。

そこで、愛恵会は長久手市の承認を得て、桜の健全な維持と保全をはかるべく、令和5年度から2年間にわたり『立石池「桜」の整備事業』を実



施することとし、新しい桜の苗木の植樹と老木の整備等を行っていきます。

また、桜の整備事業に係る協賛金を大学関係者を始め、広く一般に募集させていただきました。この協賛金は、新しい桜の植樹費用に充当され、協賛者の方々には桜の里親になっていただくものであります。皆さま方のご協力に感謝申し上げます。

## 内科学講座（肝胆膵内科）伊藤 清顕教授 近畿地方発明表彰 特別賞 文部科学大臣賞受賞

内科学講座（肝胆膵内科）の伊藤清顕教授【写真】が、令和5年11月14日（火）に神戸ポートピアホテルで開催された近畿地方発明表彰式において、「近畿地方発明表彰 特別賞 文部科学大臣賞」を受賞しました。

これは、公益社団法人発明協会主催により、優秀な発明等を完成された方々、発明等の実施化及び指導、奨励、育成に貢献された方々の功績を称え顕彰するものであり、伊藤教授の「新規な肝線維化検査方法(特許第5031928号)」が高く評価されたものです。

受賞した伊藤教授からは、「この度、公益社団法人発明協会が主催する近畿地方発明表彰において、優秀な発明等を完成し、その実施効果が高く、産業の向上に寄与していると認められる発明者を対象とした特別賞である文部科学大臣賞を受賞しました。こちらは、国立国際医療研究センター、研究開発法人産業技術総合研究所、公立大学法人名古屋市立大学及びシスメックス株式会社と共同での受賞となります。本発明は、血液検査によって簡便に肝臓の線維化の進行度が把握できる肝線維化検査方法です。本発明では、肝線維化の進行により、血液中のタンパク質M2BP上の糖鎖が微小に構造変化した糖鎖修飾異性体が増加していることを発見し、この変化した糖鎖と特異的に結合するWFAレクチンを用いる



ことで、肝臓の線維化の進行度を素早く正確に把握することができます。本発明である血液検査の『M2BPGi』は平成27年に保険収載され、現在多くの病院やクリニックなど実際の臨床現場で広く使用されるようになりました。また、この『M2BPGi』に関する英語論文は世界中から投稿されており、論文の数は160本を超えています。現在、私は本発明を元に当大学の私学ブランディング事業において『糖鎖マーカー M2BPGiを使用して長久手市民を健康長寿へ』という題名で研究を進めています。今回、この文部科学大臣賞という栄誉ある賞をいただき、大変感謝するとともに、本表彰を糧に更に研究を発展させていきたいと思っております。今回の表彰に当たり関係の皆さま方に深く感謝申し上げます。」との感想がありました。



## 内科学講座（肝胆膵内科）井上 匡央准教授 Young Investigator Award受賞

内科学講座（肝胆膵内科）の井上匡央准教授が、令和5年11月2日（木）～5日（日）に神戸コンベンションセンターにて開催された、Japan Digestive Disease Week 2023において「Young Investigator Award」を受賞しました。

これは、年に1回開催される消化器領域最大の全国学会であるJapan Digestive Disease Weekにおいて、優れた発表を行った若手研究者に送られる賞であり、井上准教授がStrategic International Sessionにて発表した「Endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy with antegrade stenting without dilation device application for malignant distal biliary obstruction in pancreatic cancer」が高く評価されたものです。

受賞した井上准教授からは、「この度は大変名誉



発表を行う井上准教授

ある賞を頂き、身の引き締まる思いです。改めまして研究遂行並びに演題発表にご助力いただいた全ての先生方に厚く御礼申し上げます。引き続き、微力ながら本学の発展に貢献できますよう精進して参ります。」との感想がありました。

## 中央放射線部 大澤 充晴主任 日本心血管インターベンション治療学会 最優秀演題賞受賞

中央放射線部の大澤充晴主任【写真】が、令和5年11月10日（金）・11日（土）に、名古屋コンベンションホールで開催された日本心血管インターベンション治療学会第49回東海北陸地方会において、最優秀演題賞を受賞しました。

これは、大澤主任が同学会にて発表された演題「各社のlow contrast-digital subtraction angiography法の被ばく線量と画質の検討」が優れたものとして高く評価されたものです。

受賞した大澤主任からは、「この度は、荣誉ある『最優秀演題賞』をいただき、大変光栄に存じます。これも一重に多くの先生方のご協力及びご指導のおかげと深く感謝しております。今後も、なお一層精進



していく所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。」との感想がありました。

# 学 術 振 興

## 学 位 授 与

### ◆大学院医学研究科



畔柳 裕紀

学位授与番号 甲第669号

学位授与年月日 令和6年1月18日

論文題目：「Galactose-deficient IgA1 is Involved in IgA Deposition

in Renal Grafts Biopsied One Hour after Kidney Transplantation (移植1時間後の腎グラフトのIgA沈着にはガラクトース欠損IgA1が発現している)」

## 外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員とした来学された方をご紹介致します。(敬称略)



ショーハグ モジュンダル  
Shohag Majumder

国 籍：バングラデシュ

現 職：シャヒドカデットアカデ  
ミー化学・生物学教員

受入講座：救急集中治療医学講座

受入期間：R6.1.9～R7.1.8(12か月)

研究課題：敗血症病態における免疫麻痺と細胞死の  
関連

## 令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 増額に伴う委託研究開発変更契約の締結

令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題について、委託研究開発費の増額に伴い、次のとおり変更契約を締結しました。

(金額単位：円)

研究事業名	研究開発担当者	委託研究 開発費	増額後委託 研究開発費 (増加額)	研究開発課題名
医療機器等研究成果 展開事業	井 上 匡 央 医 学 部 内科学講座(肝胆膵内科), 准教授	39,000,000	107,900,000 (68,900,000)	内視鏡的胆管内バルーンアブ レーション治療に関する研究 開発

- ・令和5年11月1日から令和6年1月31日までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載。
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

## 研究助成等採択者

### ◇公益財団法人中部科学技術センター

学術・みらい助成

・氏名 丸山健太 (薬理学講座・教授)  
研究題目 大腸癌予防の新機軸開拓  
助成金額 300,000円

### ◇公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団 調査研究助成

・氏名 福重香 (解剖学講座・講師)  
研究題目 再生医療の普及に向けた  
ヒト細胞大量培養法の開  
発 - 生理活性ガスナノ気  
泡の応用 -  
助成金額 1,000,000円

### ◇公益財団法人愛知腎臓財団 研究助成金

・氏名 山口真 (腎臓・リウマチ膠原  
病内科・講師)  
研究題目 ANCA関連血管炎における  
グリコカリクスをバイオマ  
ーカーとした新規治療戦略の確  
立  
助成金額 200,000円

### ◇公益財団法人第一三共生命科学振興財団 研究助成金

・氏名 丸山健太 (薬理学講座・教授)  
研究題目 癌を抑制する新しい方法論の  
提唱  
助成金額 2,000,000円

### ◇公益財団法人大幸財団 外国人来日研究助成

・氏名 小西裕之 (生化学講座・教授  
(特任))  
研究題目 高性能ゲノム編集ツールの創  
製を目指す改良型prime  
editorの開発  
助成金額 2,000,000円

### ◇公益財団法人豊秋奨学会 研究費助成

・氏名 兵頭寿典 (生化学講座・講師)  
研究題目 CRISPR/Cas9変異体を用い  
た高精度ゲノム編集によるがん  
治療法の開発  
助成金額 2,250,000円

### ◇公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団 岸本基金研究助成金

・氏名 丸山健太 (薬理学講座・教授)  
研究題目 大腸癌生物学の新境地開拓  
助成金額 2,000,000円

### ◇公益財団法人テルモ生命科学振興財団 研究開発助成金

・氏名 丸山健太 (薬理学講座・教授))  
研究題目 腸管内リボ核酸制御による大  
腸癌予防戦略の開発  
助成金額 2,000,000円

### ◇公益財団法人岩谷直治記念財団 岩谷科学技術研究助成

・氏名 梅村朋弘 (衛生学講座・講師)  
研究題目 太陽熱利用淡水化装置の実用  
性：塩害の深刻なバングラデ  
シュ南部デルタ地帯における  
実用性の模索  
助成金額 2,000,000円

### ◇公益財団法人高松宮妃癌研究基金 研究助成金

・氏名 丸山健太 (薬理学講座・教授)  
研究題目 大腸癌生物学の新機軸開拓  
助成金額 2,000,000円

### ◇公益財団法人発酵研究所 大型研究助成

・氏名 萩原真生 (分子疫学・疾病制  
御学寄附講座・准教授)  
研究題目 ウイルス性呼吸器感染症への  
酪酸産生菌の臨床応用に向け  
た基盤構築と作用機序の解明  
助成金額 10,000,000円

### ◇公益財団法人内視鏡医学研究振興財団 研究 助成

・氏名 井上匡央 (内科学講座(肝胆  
膵内科)・准教授)  
研究題目 胆管空腸吻合部狭窄に対する  
新規内視鏡的治療法の開発  
助成金額 500,000円



## 本学講座等の主催による学会等

【学会名】

・ 第28回日本エンドトキシン・自然免疫研究会

【開催日】

令和5年12月1日（金）・2日（土）

【会長等】

高村 祥子

### 第28回日本エンドトキシン・自然免疫研究会

感染・免疫学講座・教授 高村 祥子

第28回日本エンドトキシン・自然免疫研究会を令和5年12月1日（金）・2日（土）に名古屋市のウインクあいちにて開催致しました。全国から51名の会員が参加し、イブニングセミナー、一般演題、優秀賞選考セッションのほか、ランチョンセミナー、最優秀賞受賞講演、そして、招待講演と盛りだくさんの内容で、活発な討論が行われました。

優秀賞選考セッションでは、学部学生や大学院生含む若手研究者8名が研究発表を行い、会場参加者による投票で1名が優秀賞として選ばれました。最優秀賞では、エンドトキシン研究に貢献のあった50歳未満の基礎及び臨床の研究者が推薦され、いずれも業績が認められ2名とも受賞となり

ました。

コロナ禍後2回目の対面開催で、情報交換会も無事行うことができました。また、ご発表くださった方々から発表内容を主体とする総説を執筆していただき、「エンドトキシン・自然免疫研究25」としてPDF版発刊準備中です。完成後、『日本エンドトキシン・自然免疫研究会HP (<https://jeiis.or.jp/>)』にて、ご覧いただけますのでどうぞ宜しくお願い致します。

最後に、本研究会の開催に当たりまして、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



## 百聞は一見に如かず

### 【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

「漢書～趙充国伝」に「百聞は一見に如かず」との記載があります。もちろん、人から何度も聞くより、一度実際に自分の目で見るほうが確かであり、よく分かるということです。医学教育の原点は、正にそこにあると考えています。

感染症は、医師になった時から、どの領域の医師であって診る疾患の一つだと思います。医学部生に対しては、基礎医学と臨床医学の融合を目指して、感染・免疫学講座等の理解を得ながら学部低学年時から講義を行っています。臨床感染症学講座の主な担当は4学年次「臨床感染症学」で、主要な感染症の疫学、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ講義です。インフルエンザ、寄生虫、細菌性肺炎、ウイルス性肺炎、臓器ごとの感染症や血流、神経に関する感染症などについて、診断と治療に必要な病原微生物、感染臓器と治療薬の関係性を理解することも目的としています。この講義では感染症学を体系的に取り上げ、学修内容の定着率を上げるため、臨床上のリアルな症例を提示し、学生とともに考えながら診療や治療の方法を検討していく「プロブレム・ベースド・ラーニング」も導入しています。系統講義後のクリニカル・クラークシップでは、基礎医学や臨床講義で学修した感染症疾患全般に関する基本的知識を活用して、診断・治療・予防などを体系的に学修します。具体的には、病原微生物の種類、病原性、特徴といった臨床微生物に関する知識と感染症発症に関わる宿主（患者）の状態を理解し、各種感染症の診断法の選択と結果の解釈を適切に行い、治療に反映することを目標としています。

更に、外因性感染予防や内因性感染予防策を講じられるようになることも狙いの一つです。AST活動、ICT活動にも参加し、典型的な症例についての診断と治療に関する具体的な計画を立案し、回診や症例検討会などではプレゼンテーションを行えるようにしています。

卒後教育では、研修医を対象に「モーニングカンファレンス」も開催しています。感染症専門医・指

臨床感染症学講座・教授 三鴨 廣繁

導医の取得に向けて取り組んでおり、大学院（臨床感染症学）への進学も推奨しています。

### 【世界に発信する医学研究】

本講座では一つひとつの症例を大切にすることをモットーとしています。症例を通じて発生した疑問点を基礎的・臨床的に徹底的に解明し、発見・発明したことは可能な限り英文で論文化することを目標としています。ポジティブデータが得られたときにはもちろんのこと、ネガティブデータであっても論文化し発表することで後世に残り、学会での議論の対象とすることも可能になります。論文の発表及びそれらを基にした議論の積み重ねが診療ガイドライン作成の根拠ともなると考えているためです。実際に、本講座からは『PubMed』誌に掲載される英語論文を毎年約20本発表してきました。

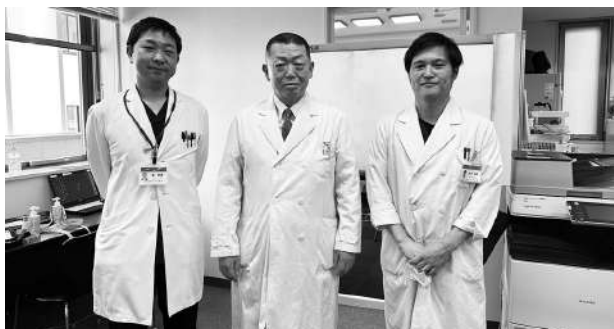
また、基礎研究は本学の分子疫学・疾病制御学寄附講座とも連携して実施しています。主な研究内容は下記のとおりです。

- 感染症全般に関する研究
- 腸内細菌叢・腔内細菌叢と各種疾患との関わりに関する研究
- 医療関連感染対策に関する実務と研究
- 不明熱の診断・治療

### 【部署からの一言】

感染症診療は全ての医師が習得すべき項目です。学生、研修医、各診療科の専門医の方々と一緒に診療、共同研究等を進めていきたいと考えています。気軽に声をかけていただければ嬉しく思います。本学の卒業生が医局員として入局し、活躍できるための人材育成が課題と考えています。

本講座からは、高知大学医学部臨床感染症学講座、和歌山県立医科大学医学部臨床感染症学講座、高知大学医学部附属病院薬剤部、日本医科大学千葉北総病院の教授を輩出してきました。国公私立大学の教授として4名を送り出したことは本講座の大きな功績ですが、本学出身者が世界中で活躍できる講座でもありたいと考えています。



スタッフ集合写真



カンファレンスの様子

## グローバルスタンダードを創出する

病理診断学講座・教授 都築 豊徳

### 【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

「提示された標準治療に従うのではなく、最新治療を構築するのが我々の役目である。」この言葉は、私の留学先の著名な教授がカンファレンス中にスタッフ全員に述べた言葉であり、今でも鮮明に記憶に残っている。現在様々な分野で標準化が叫ばれ、色々な基準が策定されている。標準化と言えば聞こえが良いのであるが、残念ながら多くの意見の妥協の産物であることが少なくなく、確固たる作成者の意識を垣間見られるようなものは少ないのが現状である。言い方を変えると、責任回避とも取れる八方美人的な内容であることが少なくない。カリキュラムの多くは消化するためチェックリスト化しており、学生自らが考える要素を排除することを推奨するような内容に陥っている様相を呈してきている。

医学教育のグローバルスタンダードは、自ら考える力を養成するというのが我々の考えである。従って、我々は様々な意見を取り入れつつ、学生自らの意見を基にして、世界レベルで発信できる内容を提示し、学生に自ら考えるスタイルを提示していきたいと考えている。学生に自己責任を持たせることにより、積極的に知識が提供できる方法を提示している。一つの例として、クリクラBを選択した学生には午前中の全ての標本供覧チェック及び切り出しに参加してもらい、実際の病理業務を担当させている。実際の業務に触れることにより、病理学への興味を持ってもらうことが主眼である。また、他の臨床科での診療行為の理解を手助けしている。

～之を楽しむ者に如かず～（「論語」雍也第六）



スタッフ集合写真

### 【世界に発信する医学研究】

本講座の責任者である都築は、病理診断の世界標準であるWHO分類第5版の日本代表として、全ての臓器の腫瘍診断の基準作りに参加した。その経験並びに知識に基づき、現在の病理診断の最低要求項目から最新情報を加味して、本院の病理診断を行っている。

日本のみならず、世界のガイドライン作成にも多数参加しており、その結果を病理診断分野の最も権威ある学術誌に毎年掲載している。国内の共同研究のみならず海外との共同研究を毎年複数行い、その結果を英文誌に報告している。その結果、過去5年間では英文誌に毎年30～40本の論文を掲載している。産学共同研究も同時に行っており、更に、その発信力を高めることに努めている。今後もより一層、世界への貢献、世界標準創生に向けて努力していきたいと考えている。

### 【部署からの一言】

病理診断学は近代医学の基盤であり、その重要性は増加の一途です。医学生には馴染みが少ない領域ですが、非常にやりがいがある領域です。一人でも多くの医学生に病理診断学に触れていただき、その重要性を認識してもらいたいと考えています。全国的に病理医の数は不足しており、その需要は非常に高い領域です。興味を持たれた方が見れば、是非紹介していただければと思います。



午前中の標本供覧風景  
学生も参加することにより、医学全体の知識を高めることに主眼を置いている。



## ～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

### 医療安全管理室

医療安全管理室は、平成15年2月に本院の中央組織の一つとして設置されました。室長を始め、専従の医師、看護師、薬剤師、事務といった多職種のメンバーが一緒に活動しています。

医療安全とは、医療事故や医療過誤のような医療トラブルを未然に防止し、安全な医療サービスを提供する取り組みです。医療上のエラーの報告を受け、その情報の収集・分析、分析結果などの院内へのフィードバックを行うとともに、個人の責任を追求する目的ではなく再発防止を目的とした予防策の立案、実施、評価及び見直しを行っています。

また、医療安全に関する院内の巡回・点検、病院職員を対象とした安全管理研修も行っています。本院で実施したことのないリスクの高い高難度新規医療技術



医療安全管理室スタッフ集合写真

の管理や、医療を提供する上で生じてくる臨床倫理的な問題についても継続的に取り組んでいます。

医療安全管理室は直接診療を行う部署ではありませんが、医療安全対策を通し、患者さんやそのご家族が安心して医療を受けられるような質の高い病院づくりを目指していきます。

### 医療連携センター

医療連携センターは、平成18年7月に医療連携・退院支援・在宅医療の推進を行うとともに、院内各診療科・部門と地域の関係諸機関・施設との連絡・調整を行い、患者さんが「適切な医療を適切な施設」で受けられるように、前方連携を担当する部門（地域医療連携室）と後方連携を担当する部門（医療福祉相談・継続看護相談）を統合し設置されました。

平成26年の新病院開院に伴い、後方連携に「入退院支援センター」が加わり、医療連携センターの多部署、多職種と協働して活動しています。

本センターは、センター長、副センター長2名、地域医療連携室、総合相談室、入退院支援センターを中心に20名程で、医療連携センター運営委員会を年6回開催し、地域の医療機関・医療者の方々と患者さんとそのご家族が、安心して医療を受けていただき、社会に戻っていただくための院内の問題点を検討・検証し、



ミーティングの様子

改善に努めています。

また、地域医療連携強化のため、愛知医科大学地域連携研修会・勉強会の開催、連携施設へ訪問の実施、連携施設医療機関情報の作成、転院時の患者情報・リハビリ情報の統一化、地域連携パスの導入（脳卒中）、近隣医師会との地域医療連携懇話会の開催等を行っています。

# 規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

## 給与規程の一部改正等

令和5年人事院勧告により国家公務員俸給表が改められたことに伴い、本学の本給表等を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年12月11日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学給与規程
- ・助教（専修医）の給与等について（理事長裁定）

## 給与規程施行細則の一部改正

学校法人愛知医科大学給与規程施行細則の一部が改正され、令和5年人事院勧告による国家公務員俸給表に従い本学の本給表を改めたことに伴い、昇格及び降格時の号給対応表を改めるため、必要な事項が整備されました。

施行日は令和6年4月1日

## 電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程の制定

学校法人愛知医科大学電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程が制定され、電子帳簿保存法の改正に伴う必要な事項が整備されました。

施行日は令和6年1月1日

## 「科学研究費助成事業に係る研究実施環境の取扱いについて」の一部改正

令和6年1月19日付で「科学研究費助成事業に係る研究実施環境の取扱いについて」（学長裁定）の一部が改正され、名誉教授等が科研費等を活用して本学で研究を実施する際の要件等が整備されました。

## 組換えDNA実験安全予防規程の一部改正等

組換えDNA実験を行う際の申請書類の様式を改めるとともに、必要な字句修正を行うため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和6年1月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学組換えDNA実験安全予防規程
- ・愛知医科大学組換えDNA実験安全予防規程細則

## 大学院学則の一部改正

愛知医科大学大学院学則の一部が改正され、看護学研究科に新たに博士課程を設置するために必要な事項が整備されました。

施行日は令和7年4月1日

## 術後疼痛管理チーム規程の制定

愛知医科大学病院術後疼痛管理チーム規程が制定され、全身麻酔手術後の疼痛管理を安全かつ適切に実施し、患者の術後合併症の減少、生活の質向上等を図るチームを設置するため、必要な事項が整備されました。

施行日は令和6年1月1日

## 感染制御チーム規程の一部改正等

感染制御業務に係る施設基準の要件変更等に対応するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年12月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院感染制御チーム規程
- ・愛知医科大学病院抗菌薬適正使用支援チーム規程

## 治験実施に係る関係規則の整備

治験実施に係る関係法令が改正されたことに伴い、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年12月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院治験実施要綱（標準業務手順書）
- ・愛知医科大学病院治験審査委員会要綱（標準業務手順書）
- ・愛知医科大学眼科クリニックMiRAI治験実施要綱（標準業務手順書）

## 未承認新規医薬品等を用いた 医療提供に関する規程の一部改正

愛知医科大学病院未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程の一部が改正され、指針名称変更に伴う必要な事項が整備されました。

施行日は令和5年12月1日

## 眼科クリニックMiRAI臨床検査科及び 放射線検査科廃止に係る関係規則の整備

眼科クリニックMiRAIの臨床検査科及び放射線検査科を廃止することに伴い、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和6年1月1日

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学眼科クリニックMiRAI規程
- ・愛知医科大学眼科クリニックMiRAI運営委員会規程
- ・愛知医科大学眼科クリニックMiRAI医療安全管理委員会規程
- ・愛知医科大学病院精度管理要領

### 【廃止】

- ・愛知医科大学眼科クリニックMiRAI精度管理委員会規程

## メディカルセンター規程の一部改正

愛知医科大学メディカルセンター規程の一部が改正され、医療技術部に新たにNP室を設置するために必要な事項が整備されました。

施行日は令和5年12月1日

## メディカルセンター医療安全管理 委員会規程の制定

愛知医科大学メディカルセンター医療安全管理委員会規程が制定され、メディカルセンターにおける医療安全の確保に係る体制等について必要な事項が整備されました。

施行日は令和6年1月1日

## メディカルセンター医療サービス 向上委員会規程の制定等

メディカルセンターの医療・患者サービスの向上を図るため、以下の関係規則が整備されました。

施行日は令和6年2月1日

### 【制定】

- ・愛知医科大学メディカルセンター医療サービス向上委員会
- ・愛知医科大学メディカルセンター患者さん等からの投書の取扱いについて（病院長裁定）

